もくじ

5章　アプリケーションについて　99

6章　システム環境の変更　103

付録　121

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。必ずお読みになり、正しくお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

記号	意味
⚠ 危険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
⚠ 警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことが想定されること”を示します。
⚠ 注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（＊2）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊3）の発生が想定されること”を示します。
お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知っていると便利な内容を示します。
役立つ操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合 …「　」 他のマニュアルへの参照の場合 …『　』 サイバーサポート、できる dynabook への参照の場合 …《　》 サイバーサポートにはさまざまな情報が搭載されており、自然語で検索できます。

＊1　重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
＊2　傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。
＊3　物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム　特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。本製品のシステムはWindows XPです。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト
アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows XP　Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版を示します。

MS-IME　Microsoft® IME 2003／ナチュラル インプット 2003を示します。

サイバーサポート　CyberSupport for TOSHIBAを示します。

ドライブ　DVDスーパーマルチドライブ／DVD-ROM&CD-R/RWドライブを示します。内蔵されているドライブはモデルによって異なります。

参照 詳細について「1章5 ドライブ」

DVDスーパーマルチドライブ（Double Layer対応）モデル
DVDスーパーマルチドライブ（Double Layer対応）が内蔵されているモデルを示します。

DVDスーパーマルチドライブモデル
DVDスーパーマルチドライブが内蔵されているモデルを示します。

DVD-ROM&CD-R/RWドライブモデル
DVD-ROM&CD-R/RWドライブが内蔵されているモデルを示します。

Pentiumモデル　インテル® Pentium® Mプロセッサ搭載モデルを示します。

Celeronモデル　インテル® Celeron® Mプロセッサ搭載モデルを示します。

無線LANモデル　無線LAN機能が内蔵されているモデルを示します。

記載について

・記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「＊＊＊＊モデルのみ」と注記します。
・インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
・アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは同梱のCD／DVDからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
・本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

Trademarks

・Microsoft、Windows、Windows Mediaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
・Intel、インテル、Pentium、Celeron、Centrinoは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標、または登録商標です。
・CyberSupport、BeatJamは、株式会社ジャストシステムの登録商標です。
・CyberSupport、BeatJamは、株式会社ジャストシステムの著作物であり、CyberSupport、BeatJamにかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。
・i.LINKは商標です。
・Fast Ethernet、Ethernetは富士ゼロックス社の商標または登録商標です。
・LaLaVoice、ConfigFreeは株式会社東芝の登録商標です。
・Adobe、Adobe ReaderはAdobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の米国ならびに他の国における商標ならびに登録商標です。
・Symantec、Norton AntiVirus、LiveUpdateはSymantec Corporationの登録商標です。
Norton Internet SecurityはSymantec Corporationの商標です。
・McAfee、マカフィーは米国法人McAfee,Inc.またはその関係会社の登録商標です。
・InterVideo、WinDVD、WinDVD CreatorはInterVideo, Inc.の登録商標または商標です。
・Sonic RecordNow!はSonic Solutionsの登録商標です。
・「できる」は、株式会社インプレスの登録商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

インテル Centrino モバイル・テクノロジについて

次の3つのコンポーネントを搭載したパソコンをインテル Centrinoモバイル・テクノロジ搭載と呼びます。
・インテル Pentium M プロセッサ
・インテル 855 チップセット ファミリ
・インテル PRO/Wireless ネットワーク・コネクション

プロセッサ（CPU）に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ（CPU）の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

・周辺機器を接続して本製品を使用している場合
・AC アダプタを接続せずバッテリ駆動にて本製品を使用する場合
・マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
・本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
・複雑な造形に使用するソフト（例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
・気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
目安として、標高 1,000 メートル（3,280 フィート）以上をお考えください。
・目安として、気温５～30℃（高所の場合 25℃）の範囲を超えるような外気温の状態で本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPU の処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。
また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。
この他の使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝 PC ダイヤル 0570-00-3100 にお問い合わせください。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ずお読みください。次の操作を行うと表示されます。

① ［スタート］→［すべてのプログラム］→［はじめに］→［リリース情報］をクリックする

アナログ放送からデジタル放送への移行について

デジタル放送への移行スケジュール
地上デジタル放送は、関東、中京、近畿の三大広域圏の一部で 2003 年 12 月から開始され、その他の地域でも、2006 年末までに放送が開始される予定です。該当地域における受信可能エリアは、当初限定されていますが、順次拡大される予定です。地上アナログ放送は 2011 年 7 月に、BS アナログ放送は 2011 年までに終了することが、国の方針として決定されています。

コピーワンスについて

2004 年 4 月 1 日より、NHK や民放連の地上／ BS デジタル放送には、著作権保護の目的から、「コピーワンス」という 1 回だけ録画が可能になるコピー制御信号が加えられています。コピーワンスは DVD の CPRM（Content Protection for Recordable Media）規格を使用しています。モデルによって内蔵または同梱されている TV チューナはアナログ放送用のものですので、地上／ BS、CS デジタル放送用のチューナを接続して、番組を録画・視聴することはできません。また、テレビ番組を本製品で録画・再生される限り、コピーワンスについてご注意いただく必要はありません。他のレコーダなどで NHK や民放連の地上／ BS デジタル放送の番組を DVD-RAM や DVD-RW ディスクへ録画した場合は、そのディスクを本製品で再生することはできませんので、番組を録画した機器で再生いただくか、または他のコピーワンスに対応した機器で再生してください。

お願い

・本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS)、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
・Windowsのシステムツールまたは『困ったときは』に記載している手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
・内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS)、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
・購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
・パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、近くの保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
・本製品はセキュリティ対策のためのパスワード設定や、無線LANの暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。
　セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、弊社は一切の責任を負いません。
・ご使用の際は必ず本書をはじめとする取扱説明書と『エンドユーザ使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。本体同梱の『お客様登録カード』またはインターネット経由で登録できます。

参照 詳細について『さあ始めよう 5章 3 お客様登録をする』

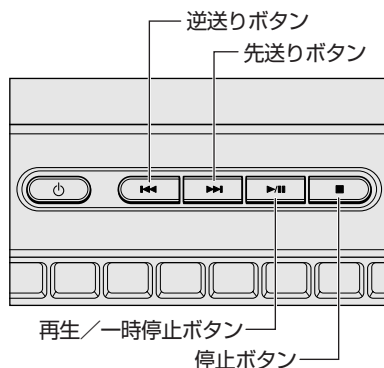
『保証書』は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

1章

本体の機能

このパソコン本体の各部について、役割、基本の使いかたなどを説明しています。

1 オーディオボタン

音楽CDやDVD、音楽ファイルを再生するときに、オーディオボタンを使って操作することができます。

それぞれのボタンの機能は、次のようになっています。

【 逆送り 】

- 「BeatJam」の場合
  再生中にクリックすると、トラックの先頭から再生します。再生中でも、トラックが始まった直後の場合は、1つ前のトラックを再生します。
- 「Windows Media Player」「InterVideo WinDVD」の場合
  再生するトラック／チャプターを1つ戻します。

【 先送り 】

再生するトラック／チャプターを1つ進めます。

【 再生／一時停止 】

再生または一時停止を行います。
使用するアプリケーションが起動していない場合、ドライブにセットされているメディアをチェックして、「東芝コントロール」で設定されているアプリケーションを起動し、再生を行います。
購入時の設定では、次のアプリケーションが起動します。

ドライブにDVDがセットされている場合　：「InterVideo WinDVD」
ドライブにDVD以外がセットされている、
または何もセットされていない場合：「BeatJam」

【 停止 】

再生を停止します。

1 操作するアプリケーションを変更する

オーディオボタンを使用したときに操作するアプリケーションを設定します。

1 ［コントロールパネル］を開き、［ プリンタとその他のハードウェア］をクリックする

2 ［ 東芝コントロール］をクリックする

［東芝コントロールのプロパティ］画面が表示されます。

3 ［メディアアプリケーション］タブで変更するモードの右の ボタンをクリックする

音楽再生アプリケーションの場合は［CD オーディオコントロール］、DVD 再生アプリケーションの場合は［DVD ビデオコントロール］で設定します。

4 アプリケーションを選択して、［OK］ボタンをクリックする

2 ディスプレイ

本製品には表示装置としてTFT方式カラー液晶ディスプレイ（1024×768ドット）が内蔵されています。ドットは画素数を表します。外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

参照 外部ディスプレイの接続について
「3章5 外部ディスプレイを接続する」

表示について

TFT方式のカラー液晶ディスプレイは非常に高精度な技術を駆使して作られています。非点灯、常時点灯などの表示が存在することがありますが、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

1 ディスプレイの設定

このパソコンのディスプレイは、色や壁紙など、さまざまな表示を設定できます。

1 表示可能色数

設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。

2048×1536ドット*1	1,677万色
1920×1440ドット	
1600×1200ドット	
1400×1050ドット	
1280×1024ドット	
1024×768ドット	
800×600ドット	

＊1 Pentiumモデルのみ

1280×1024ドット以上は仮想スクリーン表示になります。

メモ

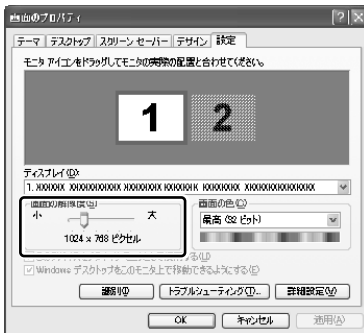
- 1,677 万色はディザリング表示です。
  ディザリングとは、1 画素（画像表示の単位）では表現できない色（輝度）の階調を、数画素の組み合わせによって表現する方法です。
- 本体液晶ディスプレイへの表示の場合、1,677 万色はディザリング表示です。本体液晶ディスプレイの解像度よりも小さい解像度で表示する場合、初期設定では表示領域部が画面いっぱいに大きく表示されます。本体液晶ディスプレイの解像度よりも大きい解像度で表示する場合は仮想スクリーン表示となります。

2 解像度を変更する

解像度を変更すると、画面上のアイコン、テキスト、その他の項目が大きく、または小さく表示されます。外部ディスプレイを接続した場合など、購入時の設定では見にくい場合は、次の手順で変更できます。

1 ［コントロールパネル］を開き、［ デスクトップの表示とテーマ］をクリック→［ 画面］をクリックする

［画面のプロパティ］画面が表示されます。

2 ［設定］タブの［画面の解像度］で、解像度を変更する

3 ［OK］ボタンをクリックする

本体液晶ディスプレイの仮想スクリーン表示

［画面のプロパティ］の［画面の解像度］で本体液晶ディスプレイの解像度を「1600 × 1200 ピクセル」以上に設定し、［画面の色］で「最高（32 ビット）」を選択すると、次のような状態になることがあります。

［画面のプロパティ］で画面の解像度または画面の色を設定したいとき、「1280 × 1024 ピクセル」以上の「最高(32 ビット)」モードに設定できない

このようなときは［画面のプロパティ］で次のように設定してから、目的の解像度や色に設定してください。

① ［画面の解像度］で「1024 × 768 ピクセル」を選択する
② ［適用］ボタンをクリックする

2 時間帯で壁紙を変える

「くるくる壁紙チェンジャー」を使って、デスクトップの壁紙を時間帯に応じて自動的に切り替えられます。また記念日や予定のある日には、イベントアイコンをデスクトップに表示できます。
「くるくる壁紙チェンジャー」を使用するには、あらかじめデスクトップの壁紙を［dynabookFun 壁紙］に設定する必要があります。［dynabookFun 壁紙］や「くるくる壁紙チェンジャー」の設定方法については、《サイバーサポート（検索）：壁紙の設定をしたい》をご覧ください。

起動方法

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［くるくる壁紙チェンジャー］をクリックする

ヘルプの起動方法

1 「くるくる壁紙チェンジャー」を起動後、［ヘルプ］ボタンをクリックする

お願い 液晶ディスプレイの取り扱い

画面の手入れ

- 画面の表面には偏光フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。
  表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で拭き取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
  液晶ディスプレイは、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。強い力を加えると配向が乱れ、発色や明るさが変わって元に戻らなくなる場合があります。また、ガラス板を破損するおそれもあります。
- 水滴などが長時間付着すると、変色やシミの原因になるので、すぐに拭き取ってください。ふき取る際は、力を入れないで軽く行ってください。

バックライト用蛍光管について

液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにバックライト用蛍光管が内蔵されています。バックライト用蛍光管は、消耗品となります。使用するにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、使用している機種を確認後、購入店、または保守サービスに相談してください。

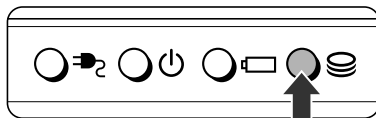
3 ハードディスクドライブ

内蔵されているハードディスクドライブは、取りはずしできません。
PC カードタイプ（TYPE Ⅱ）のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

お願い **操作にあたって**

- Disk LED が点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にフロッピーディスクや CD ／ DVD などに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、フロッピーディスク、CD ／ DVD などに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカ、テレビ、磁気ブレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

ハードディスクドライブに関する表示

内蔵のハードディスクとデータをやり取りしているときは、Disk LED が点灯します。

PC カードタイプや USB 接続などの増設ハードディスクとのデータのやり取りでは、Disk LED は点灯しません。

ハードディスクに記録された内容は、故障や損害の原因にかかわらず保証できません。万一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。

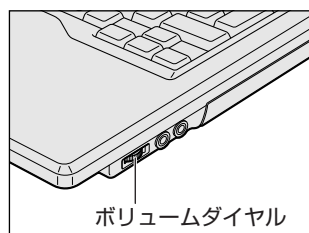
4 サウンド機能

本製品はサウンド機能を内蔵し、スピーカがついています。

1) スピーカの音量を調整する

標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。
スピーカの音量は、ボリュームダイヤル、および Windows のボリュームコントロールで調整できます。

1 ボリュームダイヤルで調整する

音量を大きくしたいときには奥に、小さくしたいときには手前に回します。

2 ボリュームコントロールで調整する

再生したいファイルごとに音量を調整したい場合、次の方法で調整できます。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［エンターテイメント］→［ボリュームコントロール］をクリックする

2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する

つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。［ミュート］をチェックすると消音となります。

【 音楽／音声を再生するとき 】

ボリュームコントロールの各項目では次の音量が調整できます。

ボリュームコントロール	全体の音量を調整する
WAVE	MP3 ファイル、Wave ファイル、音楽 CD（BeatJam、Windows Media Player の場合）、DVD-Video など
CD オーディオ	音楽 CD（BeatJam、Windows Media Player 以外の場合）

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは『アプリケーションに付属の説明書』または『ボリュームコントロールのヘルプ』を確認してください。

2 音楽／音声の録音レベルを調整する

録音レベルの調整は、次のように行います。

1 パソコン上で録音するとき

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［エンターテイメント］→［ボリュームコントロール］をクリックする

2 メニューバーの［オプション］→［プロパティ］をクリックする

3 ［音量の調整］で［録音］をチェックする

4 ［表示するコントロール］で表示項目を確認する

［マイク］がチェックされていることを確認します。

5 ［OK］ボタンをクリックする

6 ［録音コントロール］画面で、使用するデバイスの［選択］をチェックする

［マイク］：マイクから録音するとき

7 選択したデバイスのつまみで音量を調節する

同時に 2 つのデバイスを選択することはできません。

録音したい音楽／音声がボリュームコントロールの［WAVE］対応の場合、録音するときも［WAVE］の音量により影響を受けます。

③ サウンドのパワーマネージメントを設定する

本製品では、サウンドコントローラのパワーマネジメント機能を設定できるようになっています。
この機能が有効になっていると、サウンド機能が使われていないときにサウンドコントローラの電源を切ることができ、消費する電力を少し節約することができます。
購入時は、本機能が有効に設定されています。
消費電力の節約の程度は、バッテリの状態によって異なります。

1 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックする

2 [関連項目] の [コントロールパネルのその他のオプション] をクリックする

3 [SigmaTel Audio] をクリックする

4 [詳細] タブで [省電力機能を有効にする] をチェックする

5 [節電モードに入るまでの時間] に待ち時間（秒）を設定する

通常5秒〜10秒程度が適当です。

6 [OK] ボタンをクリックする

メモ

[イコライザ] タブでは、各周波数のゲインを調整し、お好みの音質に設定できます。

5 ドライブ

本製品には、DVD スーパーマルチドライブまたは DVD-ROM&CD-R/RW ドライブのいずれか 1 台が内蔵されています。内蔵されているドライブは、購入したモデルによって異なります。

- DVD スーパーマルチドライブ
  ドライブには次のマークが入っています。

＊ マークの位置や並び順は異なる場合があります。

DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R＊、CD-RW、CD-R の読み出し／書き込み機能を搭載したドライブです。

＊ DVD スーパーマルチドライブ（Double Layer 対応）モデルでは、DVD+R DL（Double Layer 対応）も使用できます。本書では、「DVD+R」と記載している場合、特に書き分けている場合を除き、DVD+R DL を含みます。

- DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ
  ドライブには次のマークが入っています。

＊ マークの位置や並び順は異なる場合があります。

CD-R/RW ドライブと DVD-ROM ドライブ両方の機能を持ちます。

ドライブは、各種ディスクの種類や特性にあった速度を選択して読み出し／書き込みを行います。ディスクによっては最大速度での読み出し／書き込みができない場合もあります。

『安心してお使いいただくために』に、CD ／ DVD を使用するときに守ってほしいことが記述されています。
CD ／ DVD を使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

お願い **DVD-Video の再生にあたって**

- DVD-Video 再生時は、なるべく AC アダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリ駆動で再生する場合は「東芝省電力」で「DVD 再生」プロファイルに設定してください。
- 使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちしたり、マルチアングルシーンで一時停止ができない場合があります。
- DVD-Video の再生は Region（リージョン）コード「2」、「ALL」のものをご使用ください。

1 使用できるメディアと対応するアプリケーション

お願い

書き込み中は、シャットダウン、ログオフ、スタンバイなどを実行しないでください。

使用できるメディアと、本製品に添付のアプリケーションで書き込みできるメディアはモデルによって異なります。
書き込みに使用できる、本製品に添付のアプリケーションは次のとおりです。

- RecordNow!（レコードナウ）

参照 『図解で読むマニュアル
オリジナル音楽CDを作る／データCD／DVDを作る』
『困ったときは 2章 3 CD／DVDにデータのバックアップをとる』

- DLA（ディーエルエー）

参照 『図解で読むマニュアル データをCD／DVDにコピーする』
《サイバーサポート（検索）：データをCD/DVDにコピーしたい》

- WinDVD Creator 2 Platinum（ウィンディーブイディークリエイター 2 プラチナム）

参照 『図解で読むマニュアル 映像を編集してDVDに残す』
「InterVideo WinDVD Creator 2 Platinum」のヘルプ

メディアにデータを書き込むとき、メディアの状態やデータの内容、またはパソコンの使用環境によって、実行速度は異なります。

1 DVDスーパーマルチドライブモデル

使用できるメディア

○：使用できる　×：使用できない

	CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD+R	DVD-RW	DVD+RW	DVD-RAM
読み出し	○	○	○*1	○*1	○*1	○*1	○*1
書き込み回数	1回	繰り返し書換可能*2	1回	1回	繰り返し書換可能*2	繰り返し書換可能*2	繰り返し書換可能*2

＊1　使用するメディアによっては、読み出しができない場合があります。
＊2　実際に書き換えできる回数は、メディアの状態や書き込み方法により異なります。

アプリケーションと書き込み可能なメディア

○：使用できる　×：使用できない

【 RecordNow! 】

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD+R	DVD-RW	DVD+RW	DVD-RAM
○	○	○*1	○*1	○*1	○*1	×

＊1　DVD-Video、DVD-Audio の作成はできません。また、DVD プレーヤなどで使用することはできません。

【 DLA 】

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD+R	DVD-RW	DVD+RW	DVD-RAM
×	○*1	×	×	○*1	○*1	×

＊1　CD-RW、DVD-RW、DVD+RW を「DLA」で使用するには、あらかじめフォーマットが必要です。

【 WinDVD Creator 2 Platinum 】

「WinDVD Creator 2 Platinum」には、「プロジェクトモード」と「ディスクマネージャ」の 2 つのモードがあります。各モードで使用できるフォーマット（映像を書き込むときの記録形式）が異なります。

プロジェクトモード	DVD-Video フォーマット
ディスクマネージャ	DVD-Video フォーマット、-VR フォーマット、+VR フォーマット

モードとフォーマットによって、書き込みできるメディアの種類が異なります。

プロジェクトモード(DVD-Video フォーマット)

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD+R	DVD-RW	DVD+RW	DVD-RAM
×	×	○	○*1	○	○	○*2

＊1　DVD+R DL に書き込んだ場合、書き込みを行ったパソコンにインストールされている「InterVideo WinDVD」でのみ再生可能となります。
＊2　DVD-Video フォーマットで記録された DVD-RAM は、本製品にインストールされている「InterVideo WinDVD」でのみ再生可能となります。

ディスクマネージャ(DVD-Video フォーマット)

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD+R	DVD-RW	DVD+RW	DVD-RAM
×	×	×	×	○*1	×	×

＊1　再生するためには、ファイナライズを行ってください。
ディスクマネージャで作成したメディアのみ、追記、再編集が可能です。

ディスクマネージャ(-VR フォーマット)

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD+R	DVD-RW	DVD+RW	DVD-RAM
×	×	×	×	×	×	○

ディスクマネージャ(+VR フォーマット)

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD+R	DVD-RW	DVD+RW	DVD-RAM
×	×	×	×	×	○*1	×

＊1　ディスクマネージャで作成したメディアのみ、追記、再編集が可能です。

【［マイコンピュータ］上で書き込む場合】

［マイコンピュータ］で目的のファイルやフォルダをドライブにコピーすると、パソコンで作成した文書データなどのファイルをメディアに書き込むことができます。*1
書き込み可能なメディアは、CD-RW、DVD-RW、DVD+RW、DVD-RAM です。
なお、これらのメディアはあらかじめフォーマットしておく必要があります。

＊1　CD-RW、DVD-RW、DVD+RW への書き込みは、「DLA」を使用してください。

参照 CD-RW、DVD-RW、DVD+RW のフォーマット
『図解で読むマニュアル データを CD ／ DVD にコピーする』
《サイバーサポート（検索）：データを CD/DVD にコピーしたい》

参照 DVD-RAM のフォーマット
「本節 ❹ DVD-RAM を使うときは」

2 DVD-ROM&CD-R/RWドライブモデル

使用できるメディア

○：使用できる　×：使用できない

	CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD+R	DVD+RW	DVD-RAM
読み出し	○	○	○*1	○*1	×	×	○*1
書き込み回数	1回	繰り返し書換可能*2	×	×	×	×	×

＊1　使用するメディアによっては、読み出しができない場合があります。
＊2　実際に書き換えできる回数は、メディアの状態や書き込み方法により異なります。

アプリケーションと書き込み可能なメディア

CD-Rには本製品に付属の「RecordNow!」で書き込みができます。
CD-RWには、「RecordNow!」および「DLA」*1で書き込みができます。

＊1　CD-RWを「DLA」で使用するには、あらかじめフォーマットが必要です。

【［マイコンピュータ］上で書き込む場合】

［マイコンピュータ］で目的のファイルやフォルダをドライブにコピーすると、パソコンで作成した文書データなどのファイルをCD-RWに書き込むことができます。*1
なお、新品のCD-RWは、使用前にフォーマットが必要です。

＊1「DLA」を使用してください。

CD-RWのフォーマット
『図解で読むマニュアル データをCD／DVDにコピーする』
《サイバーサポート（検索）：データをCD/DVDにコピーしたい》

2 使用できるCD

【読み出しできるCD】

対応フォーマットによっては、再生ソフトが必要な場合があります。

- 音楽用CD
  8cmまたは12cmの音楽用CDが聴けます。
- フォトCD
  普通のカメラで撮影した写真の画像をデジタル化して記録したものです。

- CD-ROM
  使用するシステムに適合するISO 9660フォーマットのものが使用できます。
- CD エクストラ
  記録領域は音楽データ用とパソコンのデータ用に分けられています。それぞれの再生装置で再生できます。
- CD-R
- CD-RW

【 書き込みできるCD 】
- CD-R
  書き込みは1回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。
- CD-RW

書き込み速度は、使用するメディアによって異なります。

- DVDスーパーマルチドライブモデル
  CD-Rメディア　：　最大16倍速
  最大の倍速で書き込むためには書き込み速度に対応したCD-Rメディアを使用してください。
  マルチスピードCD-RWメディア　：　最大４倍速
  High-Speed CD-RWメディア　：　最大８倍速
  Ultra Speed CD-RWメディア、UltraSpeed+ CD-RWメディアは使用できません。使用した場合、データは保証できません。
- DVD-ROM&CD-R/RWドライブモデル
  CD-Rメディア　：　最大24倍速
  最大の倍速で書き込むためには書き込み速度に対応したCD-Rメディアを使用してください。
  マルチスピードCD-RWメディア　：　最大４倍速
  High-Speed CD-RWメディア　：　最大10倍速
  Ultra Speed CD-RWメディア　：　最大16倍速
  Ultra Speed+ CD-RWメディアは使用できません。使用した場合、データは保証できません。

お願い CD-RW、CD-R について

- CD-RW、CD-R に書き込む際には、次のメーカのCD-RW、CD-R を使用することを推奨します。

  CD-RW（マルチスピード、High-Speed）
  　　　　：三菱化学メディア（株）、（株）リコー
  CD-RW（Ultra Speed）＊DVD-ROM&CD-R/RW ドライブモデルのみ
  　　　　：三菱化学メディア（株）
  CD-R　　：太陽誘電（株）、三菱化学メディア（株）、（株）リコー、
  　　　　　日立マクセル（株）

  これらのメーカ以外のCD-RW、CD-R を使用すると、うまく書き込みができない場合があります。
- CD-R に書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RW メディアは書き換え可能なメディアですが、「RecordNow!」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずCD-RW メディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
  「DLA」でCD-RW メディアに書き込んだファイルは、変更・削除することができます。
- CD-RW の消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

  参照 エラーチェックの方法
  『困ったときは 3章 その他 -Q. セーフモードで起動した』
- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。CD-RW、CD-R にデータなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。

3 使用できるDVD

【 読み出しできるDVD 】

対応フォーマットによっては、再生ソフトが必要な場合があります。

- DVD-ROM
- DVD-Video（映像再生用です。映画などが収録されています）
- DVD-R
- DVD-RW
- DVD-RAM
- DVD+R、DVD+R DL
- DVD+RW

【 書き込みできるDVD 】

DVDスーパーマルチドライブでは、DVDに書き込むことができます。

お願い

本製品のドライブでは、書き込み8倍速までのDVD-R／DVD+Rメディアと、書き換え4倍速までのDVD-RW／DVD+RWメディア、書き換え3倍速までのDVD-RAMメディアを使用することができます。またDVDスーパーマルチドライブ（Double Layer対応）モデルでは、書き込み2.4倍速までのDVD+R DLメディアも使用できます。これらより速い書き込み倍速に対応したメディアを使用することはできません。

- DVD-R
  書き込みは1回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。
  DVD-Rは、DVD-R for General Ver2.0規格に準拠したメディアを使用してください。
- DVD-RW
  DVD-RWは、DVD-RW Ver1.1またはVer1.2規格に準拠したメディアを使用してください。
- DVD+R、DVD+R DL
  DVD+R DL（Double Layer）とは、DVD+Rの記録層を2つにして、片面に2層分の記録が可能な規格のことです。
  既存の1層のDVD+Rメディアの記録容量4.7GBの約1.8倍となる、8.5GB分の記録容量を実現します。例えば、MPEG2の5Mbpsの映像データで、1層のDVD+Rメディアの時が約2時間分ならDVD+R DLメディアは約3.6時間分の記録が可能になります。
- DVD+RW
- DVD-RAM
  DVD-RAMは、DVD-RAM Ver2.0または2.1規格に準拠したメディアを使用してください。

【 DVD-RAM の種類 】

DVD-RAM にはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できる DVD-RAM は次のとおりです。
カートリッジタイプのメディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み出し／書き込みする面を変更するときは、一度ドライブからメディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる　×：使用できない

DVD-RAM の種類	本製品の対応
カートリッジなし＊[1]	○
カートリッジタイプ（取り出し不可）	×
カートリッジタイプ（取り出し可能）＊[2]	○

＊ 1　一部の家庭用 DVD ビデオレコーダでは再生できない場合があります。
＊ 2　2.6GB、5.2GB のディスクは DVD スーパーマルチドライブモデルでは書き込みできません。また、DVD-R/-RW ドライブモデルおよび DVD-ROM&CD-R/RW ドライブモデルでは使用できません。

お願い　DVD スーパーマルチドライブモデルの場合

● DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R に書き込む際には、次のメーカのメディアを使用することを推奨します。

DVD-RAM　：松下電器産業（株）、日立マクセル（株）
DVD-RW　：日本ビクター（株）、三菱化学メディア（株）
DVD-R　：松下電器産業（株）、太陽誘電（株）
DVD+RW　：三菱化学メディア（株）、（株）リコー
DVD+R　：三菱化学メディア（株）、（株）リコー
DVD+R DL：三菱化学メディア（株）

これらのメーカ以外のメディアを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

● DVD-R、DVD+R に書き込んだデータの消去はできません。

● DVD-RW、DVD+RW メディアは書き換え可能なメディアですが、「RecordNow!」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。ファイルの変更・削除が必要な場合は、まず DVD-RW、DVD+RW メディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
「DLA」で DVD-RW、DVD+RW メディアに書き込んだファイルは、変更・削除することができます。

- DVD-RW、DVD+RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rへの書き込みでは、ファイルの管理領域なども必要になるため、メディアに記載された容量分のデータを書き込めない場合があります。
- DVD-RW、DVD-Rへの書き込みでは、DVDの規格に準拠するため、書き込むデータのサイズが約1GBに満たない場合にはダミーのデータを加えて、最小1GBのデータに編集して書き込みます。このため、実際に書き込もうとしたデータが少ないにもかかわらず、書き込み完了までに時間がかかることがあります。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

参照 エラーチェックの方法
『困ったときは 3章 その他-Q. セーフモードで起動した』

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rにデータなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。
- DVD-RAMをドライブにセットしたとき、システムがDVD-RAMを認識するまでに多少時間がかかります。

メモ

- 市販のDVD-Rには業務用メディア（for Authoring）と一般用メディア（for General）があります。業務用メディアはパソコンのドライブでは書き込みすることができません。
  一般用メディア（for General）を使用してください。
- 市販のDVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rには「for Data」と「for Video」の2種類があります。映像を保存する場合や家庭用DVDビデオレコーダとの互換性を重視する場合は「for Video」を使用してください。
- 作成したDVDは、一部の家庭用DVDビデオレコーダやパソコンでは再生できないこともあります。また、作成したDVD+R DLメディアを再生するときは、DVD+R DLメディアの読み取りに対応している機器を使用してください。

4 DVD-RAMを使うときは

ここでは、DVD-RAMに書き込みをする前に必要な操作について説明します。

1 フォーマットとは

新品のDVD-RAMは、使用する目的にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。
フォーマットとは、DVD-RAMにデータの管理情報（ファイルシステム）を記録し、DVD-RAMを使えるようにすることです。
フォーマットされていないDVD-RAMは、フォーマットしてから使用してください。
ここでは、ファイルシステムとフォーマット方法について簡単に説明します。詳細はPDFマニュアルを確認してください。

参照 「本項 2- PDFマニュアルを見る方法」

お願い

フォーマットを行うと、そのDVD-RAMに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したDVD-RAMをフォーマットする場合は注意してください。

ファイルシステム

DVD-RAMをフォーマットするときにファイルシステムを選択します。
ファイルシステムは、書き込むデータの種類や書き込み後のメディアを使用する機器に応じて選択します。また、映像データを書き込むときは、書き込み用のアプリケーションによって指定されている場合があります。
選択できるファイルシステムは「UDF2.0」「UDF1.5」「FAT32」です。

【 UDF2.0 】

-VRフォーマットに対応したファイルシステムです。
家庭用DVDビデオレコーダとの互換性があります。

【 UDF1.5 】

本製品で使用しているシステムの標準の機能で読み出しできるファイルシステムです。このファイルシステムのメディアは、本製品以外のWindows XP ／ 2000＊1がインストールされたパソコン＊2でもデータを読み出すことができます。
家庭用DVDビデオレコーダとの互換性はありません。

＊1　Windows 2000 .... Microsoft® Windows® 2000 Professional operating System 日本語版
＊2　DVD-RAM ドライブが搭載されていないパソコンで DVD-RAM を読み出すためには、DVD-RAM の読み出しに対応した DVD ドライブが搭載されている必要があります。

【 FAT32 】

本製品で使用しているシステムの標準の機能で読み出し／書き込みできるファイルシステムです。このファイルシステムのメディアは、本製品以外の Windows XP ／ Me＊1 ／ 98＊2 がインストールされたパソコン＊3 でもデータを読み出すことができます。家庭用 DVD ビデオレコーダとの互換性はありません。

＊1　Windows Me ... Microsoft® Windows® Millennium Edition operating System 日本語版
＊2　Windows 98 ... Microsoft® Windows® 98 SECOND Edition operating System 日本語版
＊3　DVD-RAM ドライブが搭載されていないパソコンで DVD-RAM を読み出すためには、DVD-RAM の読み出しに対応した DVD ドライブが搭載されている必要があります。

2 フォーマット方法

Windows でのフォーマット方法を簡単に説明します。

1　フォーマットする DVD-RAM をセットする

参照 DVD-RAM のセット『さあ始めよう 2 章 4-❶ CD ／ DVD のセット』

2　［スタート］→［マイ コンピュータ］をクリックする

［マイ コンピュータ］画面が表示されます。

3　［ DVD-RAM ドライブ（D:)］をクリックする

［DVD-RAM ドライブ（D:)］が選択され、アイコンの色が反転します。

4　メニューバーの［ファイル］をクリックし①、表示されたメニューから［フォーマット］をクリックする②

アイコンを右クリックして表示されるメニューからも選択できます。

［DVDForm - D ドライブ］画面が表示されます。

5　［ドライブ］と［フォーマット種別］を選択する

映像を書き込み、家庭用DVDビデオレコーダで再生するためのDVD-RAMを作成する場合は、［ユニバーサルディスクフォーマット（UDF2.0)］を選択してください。
パソコンで使用するためのDVD-RAMを作成する場合は、［ユニバーサルディスクフォーマット（UDF1.5)］を選択してください。

6　ボリュームラベル名を入力する

UDF形式を選択した場合は、必ず入力してください。

7　［開始］ボタンをクリックする

物理フォーマットを行う場合は、［物理フォーマットを実行する］をチェックしてから、［開始］ボタンをクリックしてください。
物理フォーマットを行うと、DVD-RAM上の全セクタを検査し、不良セクタの代替処理を行います（通常は行う必要はありません）。物理フォーマットを行う場合は、フォーマットが完了するまでに時間がかかります。

メッセージが表示されます。

8　メッセージの内容を確認し、［はい］ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。

画面下のバーは進行状況を示しています。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

9　メッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。
他のDVD-RAMも続けてフォーマットする場合は、DVD-RAMを入れ替えて、手順5から実行します。
フォーマットを終了する場合は、［DVDForm - Dドライブ］画面で［閉じる］ボタンをクリックしてください。

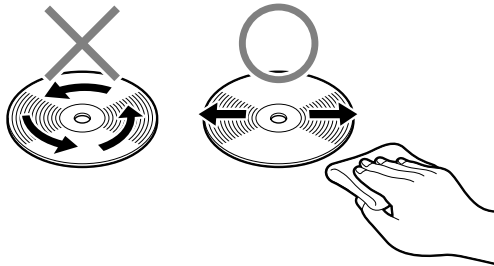
PDFマニュアルを見る方法

1　［スタート］→［すべてのプログラム］→［DVD-RAM］→［DVD-RAMドライバー］→［DVD-RAMディスクの使い方］をクリックする

「Adobe Reader」が起動し、PDFマニュアルが表示されます。

お願い CD ／ DVD の取り扱いと手入れ

CD ／ DVD の内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってください。

- 傷、汚れをつけないよう、取り扱いには十分にご注意ください。
- CD ／ DVD を折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD ／ DVD を読み込むことができなくなります。
- CD ／ DVD を直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD ／ DVD の上に重いものを置かないでください。
- CD ／ DVD は専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
- CD ／ DVD を持つときは、外側の端か、中央の穴のところを持つようにしてください。データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。
- CD ／ DVD のデータ記憶面に文字などを書かないでください。
- CD ／ DVD のレーベル面に文字などを書くときは、油性のフェルトペンなどを使用してください。
  ボールペンなど、先の硬いものを使用しないでください。
- CD ／ DVD が汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布で拭き取ってください。
  拭き取りは円盤に沿って環状に拭くのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状に拭くようにし、乾燥した布では拭き取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。

2章

通信機能

本製品に内蔵されている通信に関する機能を説明しています。
ブロードバンドでインターネットに接続する方法や、他のパソコンと通信する方法、海外でインターネットに接続するときについて紹介します。

1 LANへ接続する

パソコンをインターネットに接続する前に、コンピュータウイルスへの対策を行ってください。
コンピュータウイルスとは、パソコンにトラブルを発生させるプログラムのことで、ハードディスクやデータの一部を破壊するものもあります。
本製品には、ウイルスチェックソフトとして「Norton Internet Security」、「マカフィー・ウイルススキャン（McAfee VirusScan）／マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス（McAfee Personal Firewall Plus）」が用意されています。
『さあ始めよう 3章』をお読みになり、必ずウイルスチェックソフトのインストールと設定を行い、定期的にウイルスチェックを行ってください。設定したソフトは常に最新のバージョンに更新するようにしてください。

参照 コンピュータウイルスについて
『さあ始めよう 3章 ウイルスや不正アクセスを防ぐ』

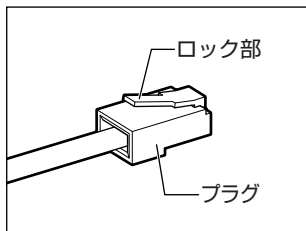
1 ケーブルを使ったLAN接続（有線LAN）

本製品には、ブロードバンド対応のLAN機能が内蔵されています。
LANコネクタにADSLモデムやケーブルモデムを接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。ブロードバンドに必要なネットワーク機器や設定などについて、詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。
また、本製品のLAN機能は、Fast Ethernet（100BASE-TX）、Ethernet（10BASE-T）に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。LANコネクタにLANケーブルを接続すると、Fast Ethernet／Ethernetを自動的に検出して切り替えます。

1 LANケーブルの接続

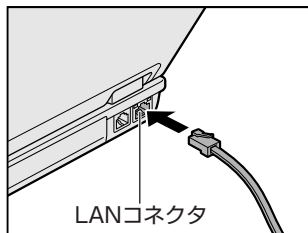
お願い LANケーブルの使用にあたって

- LANケーブルは市販のものを使用してください。モジュラーケーブルは、アナログ電話回線専用です。LANコネクタには接続できません。
- LANケーブルをパソコン本体のLANコネクタに接続した状態で、LANケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。LANコネクタが破損するおそれがあります。

LANインタフェースを100BASE-TX規格（100Mbps）で使用するときは、必ずカテゴリ5（CAT5）以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。
10BASE-T規格（10Mbps）で使用するときは、カテゴリ3（CAT3）以上のケーブルが使用できます。
カテゴリとは、ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したもので、数字が高いほど性能が高くなります。

LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

LANケーブルはモジュラーケーブルと似ているので、間違えないよう注意してください。プラグの差し込み部分に線が8本または4本ついているのが、LANケーブルです。

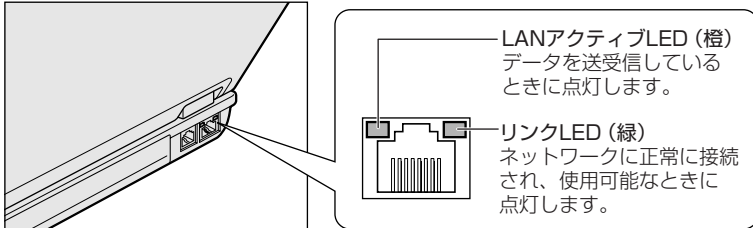
1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LANケーブルのプラグをパソコン本体のLANコネクタに差し込む

ロック部を上にして、パチンと音がするまで差し込んでください。
LANケーブルはモジュラーケーブルと似ているので、間違えないよう注意してください。
プラグの差し込み部分に線が8本または4本あるのが、LANケーブルです。

3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、『ヘルプとサポート センター』を参照してください。《サイバーサポート》で［検索対象］を［Windows XP ヘルプ］にして質問を入力し、検索することもできます。
また会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

2 LANコネクタに関するインジケータ

LAN コネクタの両脇には、LAN インタフェースの動作状態を示す 2 つの LED があります。

3 Windowsのネットワーク設定

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。
購入時はコンピュータによって仮の値が設定されています。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って設定を行ってください。また、セットアップが終了し、Windows の起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って、パスワードを入力してください。

お願い

ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windowsのセットアップ時にLANケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい､ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず､LANケーブルをはずした状態でWindowsのセットアップを行ってください。

1 ［コントロールパネル］を開き、［ ネットワークとインターネット接続］をクリックする

2 ［ ネットワーク セットアップ ウィザード］をクリックする

［ネットワークセットアップウィザードの開始］画面が表示されます。画面に従って操作してください。

コンピュータ名とワークグループは必ずネットワーク管理者の指示に従って設定してください。コンピュータ名が重複すると、エラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。

② ケーブルを使わないLAN接続（無線LAN）

＊無線LANモデルのみ

本製品には、無線LAN機能が内蔵されています。
無線LANとは、パソコンにLANケーブルを接続しない状態で使用できる、ワイヤレスのLAN機能のことです。モデムやルータの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所から無線LANネットワークに接続できます。
無線LANアクセスポイント（別売り）を使用することによって、パソコンから無線LANネットワーク環境を実現できます。

1 無線LANの概要

本製品にはIEEE802.11gおよびIEEE802.11bに準拠した無線LANモジュールが内蔵されています。次の機能をサポートしています。

- 規格値54Mbps無線LAN対応（IEEE802.11gの場合）＊1
- 規格値11Mbps無線LAN対応（IEEE802.11bの場合）＊1
- 周波数チャネル選択（2.4GHz帯）
- マルチチャネル間のローミング
- パワーマネージメント
- セキュリティ機能（WEP128bit,WPA）

＊1 表示の数値は、無線LAN規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。

【 無線LANの種類 】

無線LANは、IEEE802.11gおよびIEEE802.11bに準拠する無線ネットワークです。

- IEEE802.11gでは「直交周波数分割多重方式」（Orthogonal Frequency Division Multiplexing, OFDM）、IEEE802.11bでは「直接拡散方式」（Direct Sequence Spread Spectrum, DSSS）を採用し、IEEE802.11に準拠する他社の無線LANシステムと完全な互換性を持っています。
- Wi-Fi Alliance認定のWi-Fi（Wireless Fidelity）ロゴを取得しています。
Wi-Fiロゴは、IEEE802.11に準拠する他社の無線LAN製品との通信が可能な無線機器であることを意味します。
- Wi-Fi CERTIFIEDロゴはWi-Fi Allianceの認証マークです。

お願い 無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

（お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です！）
無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を超えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

- 通信内容を盗み見られる
  悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、
  ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報
  メールの内容
  などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

- 不正に侵入される
  悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、
  個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
  特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す （なりすまし）
  傍受した通信内容を書き換えて発信する （改ざん）
  コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する （破壊）
  などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN カードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っているので、無線 LAN 製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解したうえで、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

お願い 暗号化

WEP（暗号化）機能を使用しないと、無線LAN経由で部外者による不正アクセスが容易に行えるため、不正侵入や盗聴、データの消失、破壊などにつながる危険性があります。
そのためWEP機能を設定されることを強くおすすめいたします。

WEP機能の設定「本項 4-WEP機能を設定する」

お願い 無線LANを使用するにあたって

- 無線LANの無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。また、パソコンとの間を金属板で遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属性のケースなどで覆わないようにしてください。
- 無線LANは無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、「付録 3-5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。
- 本製品の無線LANを使用できる地域については、「付録 3-6 ご使用になれる国／地域について」を確認してください。

2 無線LANネットワークの種類

無線 LAN ネットワークには、次のような種類があります。

- 無線 LAN ステーション同士を直接ワイヤレス接続する

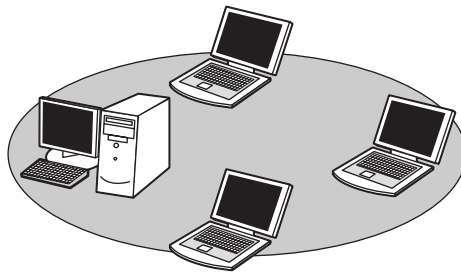
参照 「本項 2- アドホックワークグループ」

- 無線 LAN アクセスポイント経由で、インターネットやその他の無線 LAN ステーションに接続する

参照 「本項 2- インフラストラクチャネットワーク」

アドホックワークグループ

無線 LAN アクセスポイントを持たない環境（Small Office/Home Office（SOHO）など）で一時的なネットワークを構築する方法です。アドホックワークグループを設定することで、小規模な無線ネットワークを構築できます。ステーション同士が互いの通信範囲内にある場合は、これが最も簡単かつ低コストに無線ネットワークを構築する方法です。

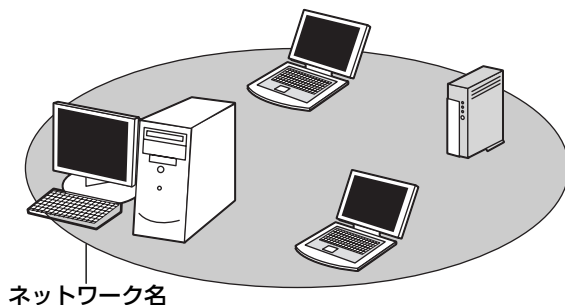
このワークグループでは、Microsoft ネットワークでサポートされているような［ファイルとプリンタの共有］などの機能を使用したファイル交換ができます。家族や友人同士でデータを共有したり、ファイルのやり取りをしたい場合などに便利です。

アドホックワークグループでネットワークを構築するには、設定が必要です。

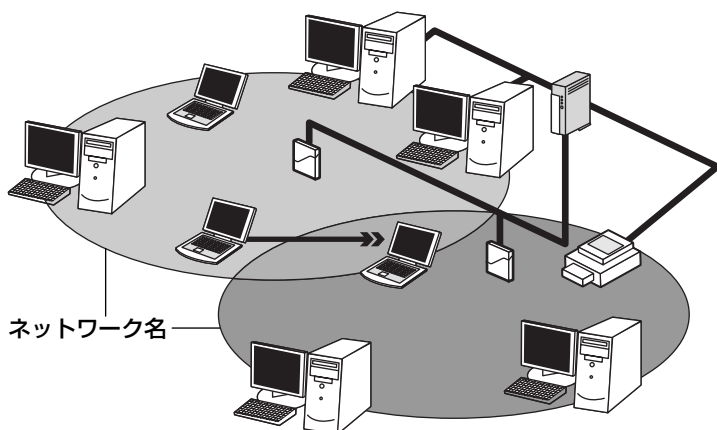
参照 アドホックワークグループの設定について
「本項 3 無線 LAN ネットワークの基本設定」

インフラストラクチャネットワーク

無線LANアクセスポイントを使用して、バックボーンとなるネットワークに接続し、すべてのネットワーク設備に無線LAN機器でアクセスできる方法です。LANのバックボーンネットワークは、次のどちらでもアクセスできます。

【スタンドアロンネットワーク】

無線LANアクセスポイントのみで構築したネットワークです。

【インフラストラクチャネットワーク】

無線LANアクセスポイントを既存の有線ネットワークに組み込み、既存の有線ネットワークをバックボーンネットワークとするネットワークです。

どちらの場合も、ネットワークに接続するには設定が必要です。

参照 ネットワーク接続のための設定について
「本項3 無線LANネットワークの基本設定」

3 無線 LAN ネットワークの基本設定

Windows XP は、標準で無線 LAN ネットワークに対応しています。
接続したい無線 LAN ネットワークに応じて設定が必要です。

ネットワーク設定の方法

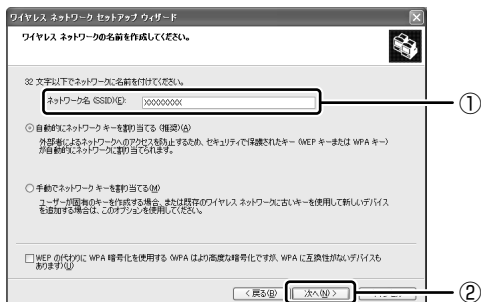
1 ［コントロールパネル］を開き、［ ネットワークとインターネット接続］をクリックする

2 ［ ワイヤレス ネットワーク セットアップ ウィザード］をクリックする

［ワイヤレスネットワークセットアップウィザードの開始］画面が表示されます。

3 ［次へ］ボタンをクリックする

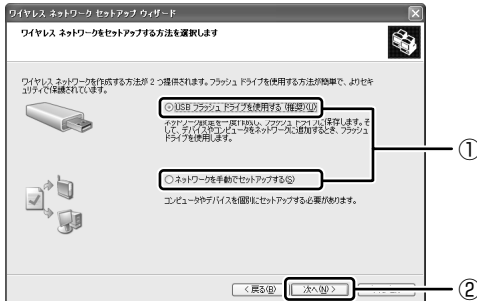
［ワイヤレスネットワークの名前を作成してください。］画面が表示されます。
パソコン本体に無線 LAN ネットワークを設定してある場合は、［タスクを選択してください。］画面が表示されるので、指示に従ってください。
手順４または手順５に進みます。

4 **ネットワーク名を入力し①、［次へ］ボタンをクリックする②**

［ワイヤレスネットワークをセットアップする方法を選択します］画面が表示されます。

すでに無線LANネットワークの環境がある場合など、ユーザがネットワークキーを任意で入力したい場合は、［手動でネットワークキーを割り当てる］にチェックし、［次へ］ボタンをクリックしてください。［ワイヤレスネットワークのためのWEPキーを入力してください。］画面が表示されます。画面の指示に従ってください。

参照 「本項 4- WEP機能を設定する」

5 目的の方法をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

他のコンピュータやデバイスを無線 LAN ネットワークに追加する方法を選択します。

別売りの USB フラッシュドライブを使用して、無線 LAN ネットワークを簡単で安全にセットアップしたい場合は、［USB フラッシュドライブを使用する］をチェックしてください。USB フラッシュドライブでセットアップするための画面が表示されるので、指示に従ってください。
それ以外の場合は、［ネットワークを手動でセットアップする］をチェックしてください。

［ウィザードの完了］画面が表示されます。

6 ［完了］ボタンをクリックする

（表示例）

手動で無線 LAN ネットワークのセットアップを行う場合は、［ネットワークの設定の印刷］ボタンをクリックしてください。ネットワークキーなどの設定が記載されている［無題 - メモ］画面が表示されます。
他のパソコンを無線 LAN ネットワークに加える場合は、［無題 - メモ］に記載されている内容を保存し、設定を行ってください。

4 詳細設定

無線LANは、ほとんどのネットワーク環境において基本的な設定だけで動作します。インフラストラクチャネットワークに接続している場合の詳細設定は、［ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ］画面で行います。

プロパティ画面の表示

1 ［スタート］→［マイコンピュータ］を開き、［その他］の［マイネットワーク］をクリックする

2 ［ネットワークタスク］の［ネットワーク接続を表示する］をクリックする

［ネットワーク接続］画面が表示されます。

3 ［ワイヤレスネットワーク接続］を選択し①、［ネットワークタスク］の［この接続の設定を変更する］をクリックする②

［ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ］画面が表示されます。

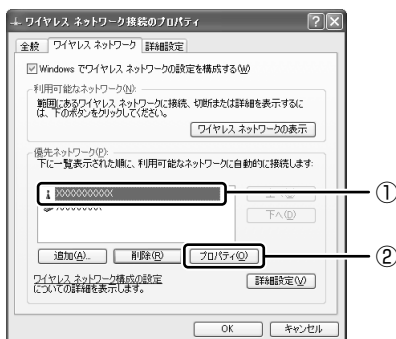
設定を変更したあと、［OK］ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

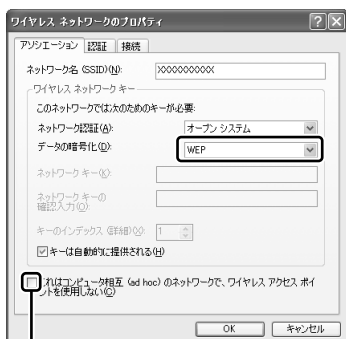
WEP 機能を設定する

WEP（Wired Equivalent Privacy）とは、無線で伝送されるデータを暗号化する機能です。WEP での暗号化には 128 ビット、64 ビットの 2 種類があり、プロパティ画面で設定できます。

1 ［ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ］画面を開く

参照 「本項 4- プロパティ画面の表示」

2 ［ワイヤレスネットワーク］タブの［ 優先ネットワーク］でネットワーク名をクリックし①、［プロパティ］ボタンをクリックする②

［ワイヤレスネットワークのプロパティ］画面が表示されます。

3 ［データの暗号化］で ボタンをクリックし、［WEP］を選択する

ネットワークがアドホックワークグループの場合は、チェックしてください。

4 ネットワークキーを設定する

ネットワークキーの設定がわからない場合は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

- **ネットワークキーが自動的に提供される場合**
  ［キーは自動的に提供される］がチェックされていることを確認する
- **ネットワークキーが自動的に提供されない場合**
  ①［キーは自動的に提供される］のチェックをはずす
  ②［ネットワークキー］と［ネットワークキーの確認入力］にネットワークキーを入力する

入力する文字の種類によって文字数が決められています。また、文字数によって設定されるセキュリティのレベルが異なります。ネットワーク上で接続する機器同士は同じセキュリティレベルに設定してください。

セキュリティレベル	文字の種類と文字数	
	半角英数文字	16進数
高（128ビット）	13文字	26文字
低（64ビット）	5文字	10文字

ネットワークキーは「＊＊＊＊（アスタリスク）」で表示されます。

5 ［OK］ボタンをクリックする

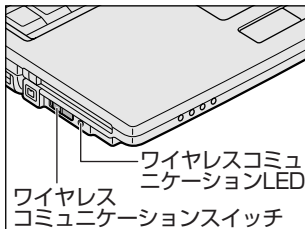
手順４で指定以外の文字数でネットワークキーを入力するとエラーメッセージが表示されます。［OK］ボタンをクリックしてメッセージを閉じ、もう１度手順４からやり直してください。

5 無線LANを使う

ここでは、ネットワークに接続している他のパソコンの確認について説明します。

⚠ 警 告

- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（手前側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。
  また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

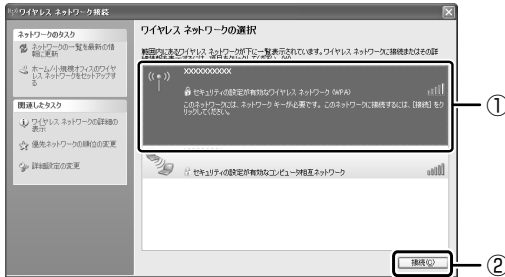
1 本体左側面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする

ワイヤレスコミュニケーション LEDが点灯します。
無線LAN機能が起動します。
無線LAN機能が起動すると、パソコンは自動的に利用できるネットワークを検索します。
利用できるネットワークが検出された場合、通知領域にメッセージが表示されます。

2 ［ワイヤレスネットワーク接続］アイコン（ ）を右クリックし、表示されたメニューから［利用できるワイヤレスネットワークの表示］をクリックする

［ワイヤレスネットワーク接続］画面が表示されます。

3 ［ワイヤレスネットワークの選択］の使いたいネットワークを選択し①、［接続］ボタンをクリックする②

WEP 機能を設定しているネットワークに接続するときは、ネットワークキーを入力する画面が表示されます。［ネットワークキー］、［ネットワークキーの確認入力］にネットワークキーを入力し、［接続］ボタンをクリックしてください。

参照 ネットワークキー「本項 3- ネットワーク設定の方法」

接続できると、通知領域に［ワイヤレスネットワーク接続 に接続しました］とメッセージが表示されます。

4 ［スタート］→［マイコンピュータ］を開き、［その他］の［マイネットワーク］をクリックする

5 ［ネットワークタスク］の［ワークグループのコンピュータを表示する］をクリックする

無線 LAN でつながれた、他のパソコンなどのデバイスが表示されます。

役立つ操作集

通信状態を確認する

［ワイヤレスネットワーク接続］アイコンをクリックすると［ワイヤレスネットワーク接続の状態］画面が表示され、接続の状態、接続継続時間、通信速度、シグナルの強さなど動作状況がわかります。

ヘルプの起動

無線 LAN の詳しい情報は『ヘルプとサポート センター』を参照してください。
《サイバーサポート》で［検索対象］を［Windows XP ヘルプ］にして質問を入力し、検索することもできます。

③ ネットワーク設定に便利な機能

本製品に用意されている「ConfigFree（コンフィグフリー）」を使うと、次のようなネットワーク設定に便利な機能が使えます。

- 近隣で使われている無線LANデバイスのSSIDを検出し、信号の強度に応じて仮想のマップ上に表示します。＊1
- 登録しているメンバーと会議をしたり、ファイルを送信できます。
- ネットワークの診断を行い、問題があればその原因や対応策を表示します。
- 自宅やオフィスなどのネットワーク設定をプロファイルとして登録しておけば、プロファイルを選択するだけでネットワーク設定やネットワークデバイスを切り替えられます。
- 有線LANケーブルが抜かれたときに、自動で無線LANに切り替えます。＊1
- 無線LANアクセスポイントのネットワーク名（SSID）に接続すると、そのネットワークで作成されていたプロファイルに自動的に切り替わります。＊1

など

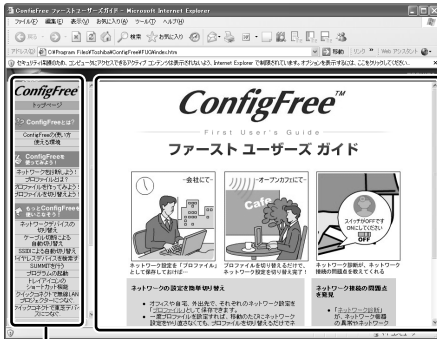
＊1　無線LANモデルの場合やPCカードタイプなどの無線LAN機器を接続した場合のみ使用できます。

他にも便利な機能が色々用意されています。
詳細については『ファーストユーザーズガイド』をご覧ください。

「ConfigFree」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントで使用してください。

ファーストユーザーズガイドの起動方法

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ネットワーク］→［ConfigFree ファーストユーザーズガイド］をクリックする

「ファーストユーザーズガイド」が表示されます。
左側に主な目次が並んでいますので、目的の項目をクリックすると右側に説明が表示されます。

説明が表示されます。

主な目次です。

「ConfigFree」の起動方法

購入時の状態では、Windowsを起動すると通知領域に「ConfigFree」のアイコン（ ）が表示されています。

「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ネットワーク］→［ConfigFree］をクリックする

［ConfigFree（ネットワーク診断）］画面が表示されます。

［タスクトレイに常駐する］をチェックすると、通知領域にアイコン（ ）が表示されます。

「ConfigFree」を起動したときは、「ConfigFree」の説明画面（Overview）が表示されます。以降必要のない場合は、［次回から表示しない］をチェックし、［閉じる］ボタンをクリックして画面を閉じてください。

「ConfigFree」の詳細については、『ファーストユーザーズガイド』またはヘルプを確認してください。

ヘルプの起動方法

1 「ConfigFree」を起動して、表示された画面の［ヘルプ］ボタンをクリックする

［ConfigFree ヘルプ］画面が表示されます。

2 内蔵モデムについて

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを 2 線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90 に準拠しています。通信先のプロバイダが V.90 以外の場合は、最大 33.6Kbps で接続されます。

お願い **内蔵モデムの操作にあたって**

- モジュラーケーブルは市販のものを使用してください。
- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。

参照 モジュラーケーブルの接続《できる dynabook》

- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。

1 海外でインターネットに接続する

本製品の内蔵モデムで使用できる国／地域については、「付録 2 技術基準適合について」を参照してください。
海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。
設定方法については、《サイバーサポート（検索）：海外でインターネットに接続したい》をご覧ください。
本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用すると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく変更できない場合があります。

3章

周辺機器の接続

パソコンでできることをさらに広げたい。そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の取り付けかたや各種設定について説明しています。

1 周辺機器について

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。
周辺機器については、それぞれの機器に付属の説明書もあわせてお読みください。
周辺機器には、次のようなものがあります。本製品では、すでにパソコンに内蔵されているものもあります。

● プリンタ　● ハードディスクドライブ（本製品では内蔵）
● PC カード　● モデム（本製品では内蔵）
● スキャナ　● フロッピーディスクドライブ
● マウス（本製品では同梱）　● デジタルカメラ　● 増設メモリ*[1]

＊1　増設の際は、メモリ購入前に「本章 8 メモリを増設する」をご覧ください。

参照 周辺機器の接続場所『さあ始めよう 2 章 1 各部の名前』

周辺機器によってインタフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているか確認してから購入してください。インタフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタの形状などの規格のことです。

お願い　取り付け／取りはずしにあたって

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。

- ホットインサーションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタから AC アダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサーションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。

- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。
- スタンバイ／休止状態中に周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。

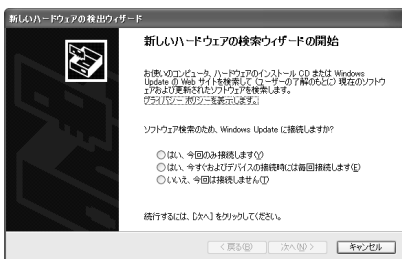
1 周辺機器を使う前に

周辺機器を使用する場合は、その機器を使用するための準備や設定が必要です。

1 ドライバをインストールする

周辺機器を使うには、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクやCD-ROMを使う場合があります。

【 自動的に対応（プラグアンドプレイ）している場合 】

Windowsには、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。
周辺機器を接続するとWindowsがドライバの有無をチェックし、対応したドライバが見つかると、自動的にインストールを開始します。
［新しいハードウェアの検出ウィザード］画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。

【 自動的に対応（プラグアンドプレイ）していない場合 】

［ハードウェアの追加ウィザード］を起動するか、機器に付属の説明書を確認し、ドライバのインストールや必要な設定を行ってください。

［ハードウェアの追加ウィザード］は、次のように起動します。

① ［コントロールパネル］を開き、［プリンタとその他のハードウェア］をクリックする
② ［関連項目］の［ハードウェアの追加］をクリックする

2 PC カードを接続する

目的に合わせたPC（ピーシー）カードを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。
PC カードには、次のようなものがあります。

- ISDN カード
- SCSI（スカジー）カード
- フラッシュメモリカード用アダプタカード　など

1 PC カードを使う前に

本製品は、PC Card Standard 準拠の TYPE Ⅱ対応のカード（CardBus 対応カードも含む）を使用できます。

PC カードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサーション）に対応しているので便利です。
使用している PC カードがホットインサーションに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『PC カードに付属の説明書』を確認してください。

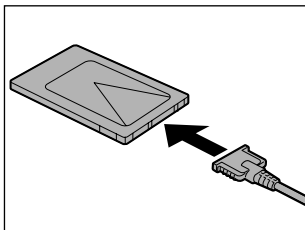
お願い

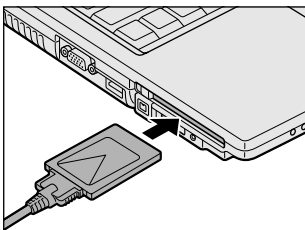
- ホットインサーションに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。
- PC カードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PC カードを取りはずす際に、PC カードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてから PC カードを取りはずしてください。
- PC カードの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずに PC カードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

2 PCカードを使う

PCカードを使う場合、パソコン本体のPCカードスロットにPCカードを取り付けてください。

1 取り付け

1 PCカードにケーブルを付ける

SCSIカードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。

2 PCカードの表裏を確認し、表を上にして挿入する

カードは無理な力を加えず、静かにカードが奥に突き当たるまで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードを使用できない、またはPCカードが壊れる場合があります。

カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

2 取りはずし

お願い

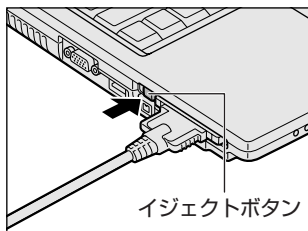
取りはずすときは、PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

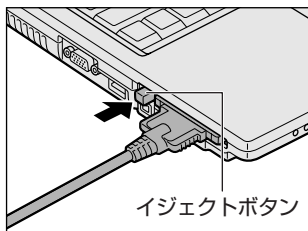
1 PCカードの使用を停止する

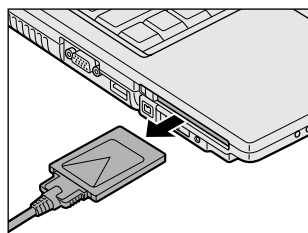
① 通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする

② 表示されたメニューから［XXXX（取りはずす PC カード）を安全に取り外します］をクリックする

③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

2 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが出てきます。
カードが奥まで差し込まれていない場合、イジェクトボタンが出てこないことがあります。カードを奥まで押し込んでから、もう一度イジェクトボタンを押してください。

3 もう 1 度イジェクトボタンを押す

「カチッ」と音がするまで押してください。
カードが少し出てきます。

4 カードをしっかりとつかみ、抜く

カードを抜くときはケーブルを引っ張らないでください。
故障するおそれがあります。
熱くないことを確認してから行ってください。

5 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが収納されていない場合は、イジェクトボタンを押して収納します。

3 USB対応機器を接続する

USB（ユーエスビー）対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。
USB対応機器には次のようなものがあります。

- ●フロッピーディスクドライブ
- ●USB対応マウス　●USB対応プリンタ
- ●USB対応スキャナ　●USB対応ターミナルアダプタ　など

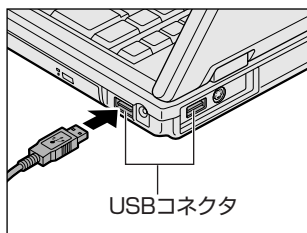
本製品のUSBコネクタにはUSB2.0対応機器とUSB1.1対応機器を取り付けることができます。
USB対応機器の詳細については、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

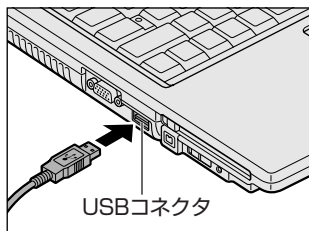
お願い　操作にあたって

- 電源供給を必要とするUSB対応機器を接続する場合は、USB対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB対応機器を使用するには、システム（OS）、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべてのUSB対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべてのUSB対応機器の動作は保証できません。
- USB対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後USB対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

1 取り付け

1 USBケーブルのプラグをパソコン本体のUSBコネクタに差し込む

【右側面／背面】

プラグの向きを確認して差し込んでください。

【 左側面 】

2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。

2 取りはずし

お願い

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MO ドライブなど、記憶装置の USB 対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

1 USB 対応機器の使用を停止する

① 通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする

② 表示されたメニューから［XXXX（取りはずす USB 対応機器）を安全に取り外します］をクリックする

③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

＊ 通知領域にこのアイコンが表示されない USB 対応機器は、手順 1 の①～③は必要ありません。

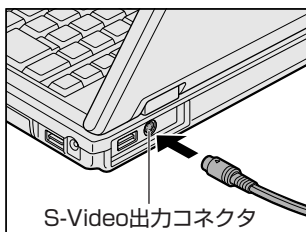
2 パソコン本体と USB 対応機器に差し込んである USB ケーブルを抜く

4 テレビを接続する

本製品のS-Video（エスビデオ）出力コネクタとテレビをS端子ケーブルで接続すると、テレビ画面にデスクトップ画面を表示させることができます。
接続するS端子ケーブルは、4ピンコネクタのケーブルを使用してください。

1 取り付け

テレビとパソコン本体の電源を切った状態で接続してください。

1 S端子ケーブルのプラグをパソコン本体のS-Video出力コネクタに差し込む

2 S端子ケーブルのもう一方のプラグをテレビのS1/S2映像入力端子に差し込む

テレビの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れます。
音声はパソコンのスピーカで聞くか、ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続して聞いてください。

2 テレビに表示する

テレビに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

お願い

- 必ず、DVD-Videoなどを再生する前に、表示装置の切り替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
  - ・データの読み出しや書き込みをしている間
  - ・通信を行っている間

メモ

テレビに表示する場合は、1024×768ドット以下の解像度でご覧ください。

【 方法 1 － [画面のプロパティ] で設定する 】

1 [コントロールパネル] を開き、[デスクトップの表示とテーマ] をクリックする

2 [画面] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

3 [設定] タブで [詳細設定] ボタンをクリックする

4 [Intel(R) Extreme Graphics 2 for Mobile] タブで [グラフィックのプロパティ] ボタンをクリックする

5 [デバイス] タブで表示する装置を選択する

✓ がついているアイコンが現在の表示装置です。

変更するときは画面左側の表示装置のアイコンをクリックしたあと、形式を選択します。

- 本体液晶ディスプレイだけに表示

  [ノートブック] アイコンをクリックしてください。

- テレビだけに表示

  [テレビ] アイコンをクリックしてください。

  「ビデオ標準」では 10 種類のモードが表示されますが、次の 3 つのみ使用してください。

  ・NTSC-M（米国仕様の TV 受信機）

  ・NTSC-J（日本仕様の TV 受信機）

  ・PAL-B（ヨーロッパ仕様の TV 受信機）

- 外部ディスプレイだけに表示

  [PC モニタ] アイコンをクリックしてください。

- Clone 表示（クローン表示）

  2 つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。

  ① [Intel(R) Dual Display Clone] アイコンをクリックする

②表示に合わせた設定をする

項　目	プライマリデバイス	セカンダリデバイス
本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイでClone表示	ノートブック	PCモニタ
本体液晶ディスプレイとテレビでClone表示	ノートブック	テレビ

● 拡張表示

2つの表示装置を1つの大きなデスクトップ画面として使用できます。本体液晶ディスプレイと外部液晶ディスプレイまたはテレビの両方にクローン表示している場合、［画面のプロパティ］から拡張表示を設定できません。CTRL＋ALT＋F12キーを押して設定画面を表示し、次のように操作します。

①［拡張デスクトップ］アイコンをクリックする

［拡張デスクトップ］アイコンが表示されていない場合は、▼ボタンをクリックしてください。

②表示に合わせた設定をする

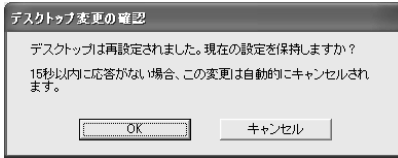
項　目	プライマリデバイス	セカンダリデバイス
本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイで拡張表示	ノートブック	PCモニタ
本体液晶ディスプレイとテレビで拡張表示	ノートブック	テレビ

メモ

本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイをClone表示（クローン表示）または拡張表示に設定する際に、外部ディスプレイにノイズが発生した場合は、外部ディスプレイの解像度、色数、リフレッシュレートを下げてご使用ください。設定は、Clone表示（クローン表示）または拡張表示に設定したあと、［デバイス］タブの［デバイス設定］ボタンをクリックし、表示される画面で行います。

3章 周辺機器の接続

6 ［OK］ボタンをクリックする

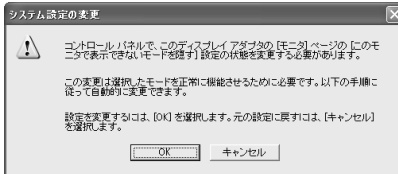
次の画面が表示されます。

7 ［OK］ボタンをクリックする

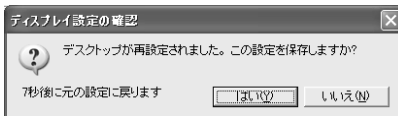
8 ［OK］ボタンをクリックする

9 ［画面のプロパティ］画面で［OK］ボタンをクリックする

【 メッセージについて 】

設定の途中で、次のメッセージが表示された場合は、［OK］または［はい］ボタンをクリックしてください。

- ［システム設定の変更］画面

- ［ディスプレイ設定］画面

- ［ディスプレイ設定の確認］画面

【 方法２ − FN＋F5キーを使う 】

FNキーを押したままF5キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。FNキーを押したままF5キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、FNキーを離すと表示装置が切り替わります。

- 表示装置をLCD（本体液晶ディスプレイ）に戻す方法
  現在の表示装置がLCD（本体液晶ディスプレイ）以外に設定されている場合、表示装置をLCDに戻すことができます。表示装置を選択する画面が表示されていない状態で、FN＋F5キーを３秒以上押し続けてください。
  表示装置に何も表示されず、選択する画面が表示されているか確認できない場合は、いったんキーボードから指を離してから、FN＋F5キーを３秒以上押し続けてください。

- LCD .... 本体液晶ディスプレイだけに表示
- LCD ／ CRT ...... 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時表示
- CRT .... 外部ディスプレイだけに表示
  外部ディスプレイを接続している／していないに関わらず、外部ディスプレイだけに表示されます。
  本体液晶ディスプレイには何も表示されません。
- LCD ／ TV .... 本体液晶ディスプレイとテレビに同時表示
- TV .... テレビだけに表示
  テレビを接続している／していないに関わらず、テレビだけに表示されます。
  本体液晶ディスプレイには何も表示されません。

「方法１」で［拡張表示］に設定した場合は、FN＋F5キーで表示装置を切り替えられません。「方法１」の手順で表示装置を切り替えてください。また、複数のユーザで使用する場合、ユーザアカウントを切り替えるときは［Windowsのログオフ］画面で［ログオフ］を選択して切り替えてください。［ユーザーの切り替え］で切り替えた場合は、FN＋F5キーで表示装置を切り替えられません。

参照 ユーザアカウントの切り替え《できるdynabook》

3 テレビ表示／本体液晶ディスプレイとテレビの同時表示中

テレビ表示や本体液晶ディスプレイとテレビの同時表示中に、次のような状態になることがあります。

スタンバイまたは休止状態になったとき、FN＋F5キーを押して本体液晶ディスプレイへ表示装置を変更すると、その後FN＋F5キーを押してテレビ表示または本体液晶ディスプレイとテレビの同時表示に設定できない

このようなときは、次の方法で設定してください。

① CTRL＋ALT＋F12キーを押す
　［Intel(R) 82852/82855 GM/GME Graphics Controllerのプロパティ］画面が表示されます。

② ［デバイス］タブ左側のイラストアイコンで、表示装置を切り替える

4 取りはずし

パソコン本体の電源を切ってから、テレビの電源を切った後、取りはずしを行ってください。

1 パソコン本体とテレビに差し込んであるS端子ケーブルを抜く

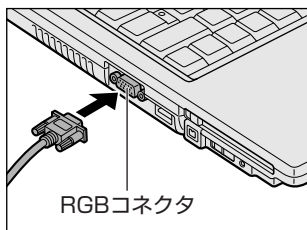
5 外部ディスプレイを接続する

RGB(アールジービー)コネクタにケーブルを接続して、外部ディスプレイに表示させることができます。

> メモ
>
> 使用可能なディスプレイは解像度により異なります。解像度にあったディスプレイを接続してください。

1 接続

外部ディスプレイとパソコンの電源を切った状態で接続してください。

1 外部ディスプレイのケーブルのプラグを RGB コネクタに差し込む

外部ディスプレイの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れます。
外部ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその外部ディスプレイを認識します。

取りはずすときは、パソコン本体の電源を切ってから、外部ディスプレイの電源を切った後、RGB コネクタからケーブルのプラグを抜きます。

2 表示装置を切り替える

外部ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- 外部ディスプレイだけに表示する
- 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイに同時表示する
- 本体液晶ディスプレイだけに表示する

「東芝省電力」で表示自動停止機能を設定して外部ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スタンバイに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。
表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがありますが、故障ではありません。

【 切り替え方法 】

表示装置を切り替える方法は、テレビに表示する場合を確認してください。

参照 テレビ接続について「本章 4-2 テレビに表示する」

メモ

外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイを同時表示させる場合は、外部ディスプレイ／本体液晶ディスプレイとも、本体液晶ディスプレイの色数／解像度で表示されます。

3 表示について

外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

参照 ビデオモードについて「付録 1-1 サポートしているビデオモード」

4 常に外部ディスプレイに表示するには

出荷時の状態では、パソコンの電源を入れたとき、または休止状態から復帰したときに、デスクトップ画面は、前回使用していた表示装置が存在している場合はその表示装置に表示されます。

これを、前回使用していた表示装置が本体液晶ディスプレイであっても、パソコンの電源を入れたとき、または休止状態から復帰したときに、外部ディスプレイが接続されていれば、常に外部ディスプレイに表示するようにできます。

次の手順で「TOSHIBA Display Service for Ext.Monitor」をインストールしたあと、パソコンを再起動してください。

① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アプリケーションの再インストール] をクリックする

② [セットアップ画面へ] をクリックする

③ [東芝ユーティリティ] タブで [TOSHIBA Display Service for Ext.Monitor のセットアップ] をクリックする

④ 表示されるメッセージに従ってインストールを行う

[ファイルのダウンロード] 画面上で [実行] を選択してください。

6 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する

i.LINK（IEEE1394）コネクタ（i.LINK コネクタとよびます）に接続します。
i.LINK（IEEE1394）対応機器（i.LINK 対応機器とよびます）には次のようなものがあります。

- i.LINK 対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK 対応ハードディスクドライブ
- i.LINK 対応 MO ドライブ
- i.LINK 対応プリンタ

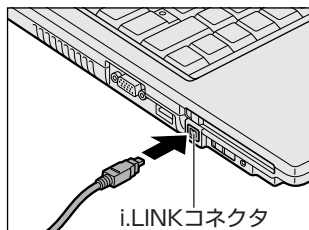
i.LINK 対応機器の詳細については、『i.LINK 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い　操作にあたって

- 静電気が発生しやすい場所や電気的ノイズが大きい場所での使用時には注意してください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電気的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめ了承してください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラなどを使用し、データ通信を行っている最中に他の i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしは、データ通信を行っていないときまたはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。
- i.LINK 対応機器を使用するには、システム（OS）および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証できません。
- ケーブルは規格に準拠したもの（S100、S200、S400 対応）を使用してください。詳細については、ケーブルのメーカに問い合わせてください。
- 3m 以内の長さのケーブルを使用してください。
- 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしや電源コードと AC アダプタの取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。

1 取り付け

1 ケーブルのプラグを i.LINK コネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。

2 ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む

2 取りはずし

1 i.LINK 対応機器の使用を停止する

① 通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする

② 表示されたメニューから取りはずす i.LINK 対応機器を選択する

③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

＊ 通知領域にこのアイコンが表示されない i.LINK 対応機器は、手順 1 の①〜③は必要ありません。

2 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

3 i.LINKによるネットワーク接続

システム（OS）が Windows XP で i.LINK コネクタがあるパソコン同士を i.LINK（IEEE1394）ケーブルで接続すると、2 台で通信ができます。ネットワークの設定については、『ヘルプとサポート センター』を参照してください。《サイバーサポート》で［検索対象］を［Windows XP ヘルプ］にして質問を入力し、検索することもできます。

1 ケーブルの一方のプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに接続する

2 ケーブルのもう一方のプラグを、接続する機器の i.LINK コネクタに接続する

7 その他の機器を接続する

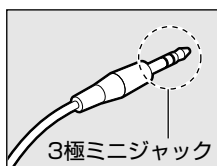
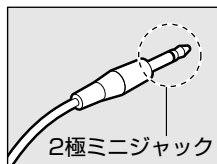
本製品には、ここまで説明してきた他にも、さまざまな機器を接続できます。

1 マイクロホン

マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。
本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

 サウンド機能について「1章4 サウンド機能」

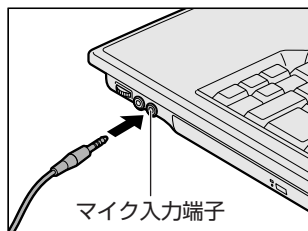
1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。

- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは3.5mm φ 3極ミニジャックタイプが使用できます。

3.5mm φ 2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。
本製品には、音声認識ソフト「LaLaVoice（ララボイス）」が用意されています。

 「LaLaVoice」について
《サイバーサポート（検索）：パソコンを音声で操作したい》

2 接続

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む

取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜きます。

② ヘッドホン

ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続すると、音楽や音声を聴くことができます。ヘッドホンのプラグは、直径3.5mm φステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い

次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。
・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

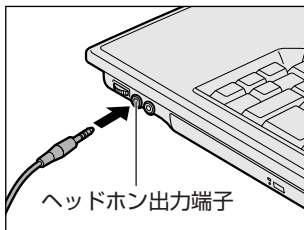
本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、またはWindowsのボリュームコントロールで調節してください。

ボリュームコントロールは、次のように操作して起動します。

① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

1 接続

1 ヘッドホンのプラグをヘッドホン出力端子に差し込む

取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

8 メモリを増設する

増設メモリスロットに増設メモリを取り付けることができます。
本製品には2つの増設メモリスロット（スロットAとスロットB）があり、スロットAはすでに256MBまたは512MBのメモリが取り付けられています。別売りの増設メモリをスロットBに取り付けたり、スロットAのメモリを付け替えることができます。
取り付けることのできるメモリの容量は、2つのスロットを合わせて、Pentiumモデルの場合は最大2GBまで、Celeronモデルの場合は最大1GBまでです。
Celeronモデルの場合、別売りの増設メモリ1GB（タイプ1）：PAME1001を取り付けるときは、あらかじめ取り付けられているメモリを取りはずしてください。

⚠ 警 告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。

⚠ 注 意

- ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後はやけどするおそれがありますので増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。電源を切った後30分以上たってから行うことをおすすめします。

お願い

- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにゴミが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。
- 増設メモリを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分ではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをゆるめる際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。

増設メモリは、本製品で動作が保証されているものを使用してください。それ以外のメモリを増設すると、起動しなくなったり、動作が不安定になる場合があります。仕様に合わない増設メモリを取り付けるとパソコン本体が起動せず、次のような警告音（ビープ音）が鳴ります。

警告音	エラーの原因
ピー、ピッ、ピッ、ピッ	Celeron モデルの場合に、合計で 1GB ＋ 128MB 以上のメモリが取り付けられている。
ピー、ピッ	スロット A に動作保証されていないメモリ（SPD 対応）が取り付けられている。
ピー、ピッ、ピッ	スロット B に動作保証されていないメモリ（SPD 対応）が取り付けられている。
ピー、ピッ、無音、ピー、ピッ、ピッ	スロット A、スロット B に動作保証されていないメモリ（SPD 対応）が取り付けられている。
警告音が鳴らない	動作保証されていないメモリ（SPD 非対応）が取り付けられている。

起動はするがメモリが認識されない場合は、どちらか一方のスロットには動作保証されているメモリが取り付けられていますが、もう一方のスロットには動作保証されていないメモリ（SPD 非対応）が取り付けられています。

お願い **静電気について**

増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

1 取り付け

あらかじめ取り付けられているメモリを交換したい場合は、先にメモリの取りはずしを行ってください。

参照 「本節 2 取りはずし」

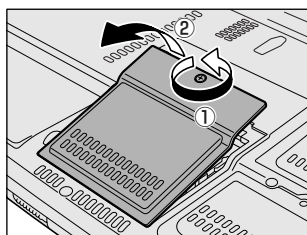
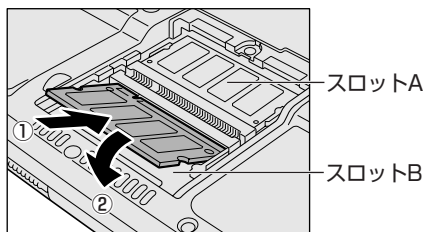
1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

参照 電源の切りかた『さあ始めよう 1 章 4 電源を切る／入れる』

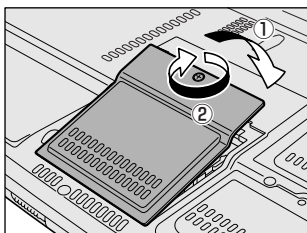
2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす

参照 バッテリパックの取りはずし
「4 章 1-❸ バッテリパックの取り付け／取りはずし」

4 増設メモリカバーのネジ 1 本をゆるめ①、カバーをはずす②

5 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②

増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。
このとき、増設メモリの両端（切れ込みが入っている部分）を持って差し込むようにしてください。

6 増設メモリカバーをつけて①、手順４でゆるめたネジ１本をとめる②

増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

7 バッテリパックを取り付ける

参照 バッテリパックの取り付け
「4章 1-❸ バッテリパックの取り付け／取りはずし」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照 メモリ容量の確認について「本節 3 メモリ容量の確認」

2 取りはずし

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

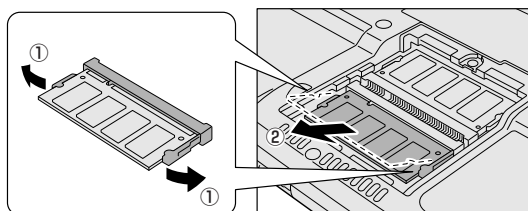
参照 電源の切りかた『さあ始めよう 1 章 4 電源を切る／入れる』

2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす

参照 バッテリパックの取りはずし
「4 章 1-❸ バッテリパックの取り付け／取りはずし」

4 増設メモリカバーのネジ 1 本をゆるめ、カバーをはずす

5 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす②

斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。

6 増設メモリカバーをつけて、手順 4 でゆるめたネジ 1 本をとめる

増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

7 バッテリパックを取り付ける

参照 バッテリパックの取り付け
「4 章 1-❸ バッテリパックの取り付け／取りはずし」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

3 メモリ容量の確認

メモリ容量は「東芝 PC 診断ツール」で確認することができます。

【 確認方法 】

① ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［PC 診断ツール］をクリックする
② ［基本情報］タブで［メモリ］の数値を確認する

参照 「東芝 PC 診断ツール」について
『困ったときは 1 章 3- ❶ パソコンの情報を見る／状態を診断する』

メインメモリはビデオ RAM と共用のため、［基本情報］タブで表示されるメモリ容量は、実際の搭載メモリより少なく表示されます。

4章

バッテリ駆動

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリは、使いかたによっては長持ちさせることができます。
ここでは、充電や充電量の確認、省電力の設定、一時的に使用を中断するときの設定など、バッテリ使用するにあたっての取り扱い方法や各設定について説明しています。

---

1 バッテリについて

パソコン本体には、4,400mAh または 2,200mAh のバッテリパックが取り付けられています。
バッテリ駆動（AC アダプタを接続しない状態）で使う場合は、あらかじめ AC アダプタを接続してバッテリの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリパックを取り付けてください。
本製品を初めて使用するときは、バッテリパックを充電してから使用してください。
また、別売りの大容量バッテリパック（8,800mAh）やバッテリパック（4,400mAh または 4,700mAh < 2,200mAh のバッテリパックが取り付けられているモデルの場合 >）をご使用になると、より長い時間バッテリ駆動でお使いいただけます。

『安心してお使いいただくために』に、バッテリパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

⚠ 危 険

- バッテリパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリ（バッテリパック（2,200mAh）：PABAS048 またはバッテリパック（4,400mAh）：PABAS049 またはバッテリパック（4,700mAh）：PABAS054 または大容量バッテリパック（8,800mAh）：PABAS050）をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため火災・破裂・発熱のおそれがあります。

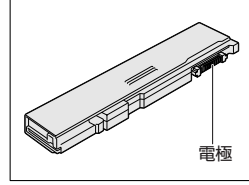
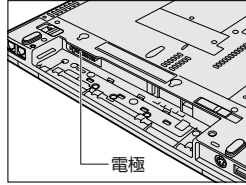
⚠ 警 告

- 別売りのバッテリパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないでください。
  お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。

⚠ 注 意

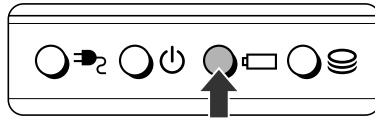
- バッテリパックの充電温度範囲内（5 ～ 35℃）で充電してください。
  充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- バッテリパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。

お願い

- バッテリ駆動で使用しているときは､バッテリの残量に十分注意してください｡バッテリを使いきってしまうと､スタンバイが効かなくなり､電源が切れて､メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、1度全バッテリを充電してください。
- 電極に手を触れないでください｡故障の原因になります。

1 バッテリ充電量を確認する

バッテリ駆動で使う場合、バッテリの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリの充電量を確認しておく必要があります。

1 Battery LEDで確認する

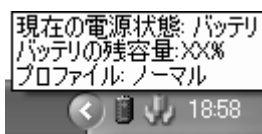
ACアダプタを使用している場合、Battery ▭ LEDが点灯します。

Battery ▭ LEDは次の状態を示しています。

緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	・バッテリが接続されていない ・ACアダプタが接続されていない ・バッテリ異常 異常の場合は、購入店またはお近くの保守サービスに連絡してください。

バッテリ駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリの充電が必要です。

参照 バッテリの充電について「本節 ❷ バッテリを充電する」

2 通知領域の［東芝省電力］アイコンで確認する

通知領域の［東芝省電力］アイコン（ ）の上にポインタを置くと、バッテリ充電量が表示されます。
このときバッテリ充電量以外にも、現在使用しているプロファイル名や、使用している電源の種類が表示されます。

参照 省電力設定について「本章 2 省電力の設定をする」

1ヵ月以上の長期にわたり、ACアダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリ駆動を行わないと、バッテリ充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリ充電量が減少したときは、Battery LEDや［東芝省電力］アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヵ月に1度は再充電することを推奨します。

参照 再充電について「本節 ❷-2 バッテリを長持ちさせるには」

3 バッテリ充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

- Battery ▭ LED がオレンジ色に点滅する（バッテリの減少を示しています）
- バッテリのアラームが動作する
  「東芝省電力」の［アクション設定］タブの［アラーム設定］で設定すると、バッテリの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

①パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
②電源を切ってから、フル充電のバッテリパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリ減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery ▭ LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリ

本製品には、取りはずしができるバッテリパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリが内蔵されています。
時計用バッテリの充電は、AC アダプタを接続し、パソコン本体の電源が入っているとき（電源 ON 時）に行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。
時計用バッテリが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

【 充電完了までの時間 】

状態	時計用バッテリ
電源 ON（Power ⏻ LED が緑色に点灯）	8 時間

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

2 バッテリを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い

バッテリパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリは5～35℃の室温で充電してください。

1 充電方法

1 パソコン本体にACアダプタを接続し、電源コードの電源プラグをコンセントに差し込む

DC IN LEDが緑色に点灯してBattery LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。
電源コードの電源プラグをコンセントに差し込むと、パソコン本体の電源のON／OFFにかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery LEDが緑色になるまで充電する

バッテリの充電中はBattery LEDがオレンジ色に点灯します。
DC IN LEDが消灯している場合は、電源が供給されていません。ACアダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【 充電完了までの時間 】

バッテリパックは消耗品です。バッテリ充電時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。
周囲の温度が低いとき、バッテリパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くかかることがあります。
詳細は、別紙の『dynabook TX/4シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

【 使用できる時間 】

バッテリパックは消耗品です。バッテリ駆動での使用時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。
詳細は、別紙の『dynabook TX/4シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

【 バッテリ駆動時の処理速度 】

高度な処理を要するソフトウェア（3D グラフィックス使用など）を使用する場合は、充分な性能を発揮するために AC アダプタを接続してご使用ください。

【 使っていないときの充電保持時間 】

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリ充電量は少しずつ減っていきます。バッテリの保持時間は、放置環境などによって異なります。
詳細は、別紙の『dynabook TX/4 シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

スタンバイを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリ駆動時は休止状態にすることをおすすめします。

2 バッテリを長持ちさせるには

- AC アダプタをパソコン本体に接続したままでパソコンを８時間以上使用しない場合は、バッテリを長持ちさせるためにも AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 1ヵ月以上の長期間バッテリを使わない場合は、パソコン本体からバッテリパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- 1ヵ月に 1 度は、AC アダプタをはずしてバッテリ駆動でパソコンを使用してください。
その際には、パソコンを使用する前に次の方法で再充電してください。

1 パソコン本体の電源を切る

2 パソコン本体から AC アダプタをはずし、パソコンの電源を入れる

電源が入らない場合は手順４へ進んでください。

3 ５分程度バッテリ駆動を行う

この間、Battery LED が点滅するか、充電量が少なくなった等の警告が表示された場合は、すぐに AC アダプタを接続し、手順４へ進みます。

4 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードの電源プラグをコンセントにつなぐ

DC IN LED が緑色に点灯して Battery LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

5 Battery LED が緑色になるまで充電する

バッテリの充電中は Battery LED がオレンジ色に点灯します。
DC IN LED が消灯している場合は、通電していません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【 バッテリを節約する 】

バッテリを節約して、本製品をバッテリ駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする 参照 「本章 3-❷ 休止状態」
- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく
  参照 「本章 3-❸ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」
- 省電力のプロファイルに設定する 参照 「本章 2 省電力の設定をする」

3 バッテリパックの取り付け／取りはずし

バッテリパックの取り付け／取りはずし方法を説明します。
バッテリパックの取り付け／取りはずしのときには、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

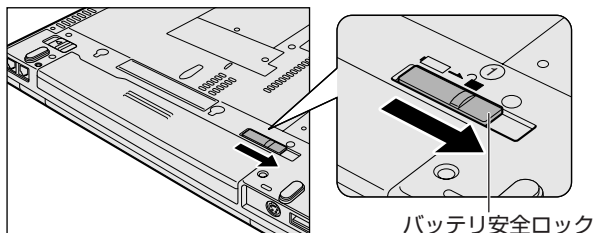
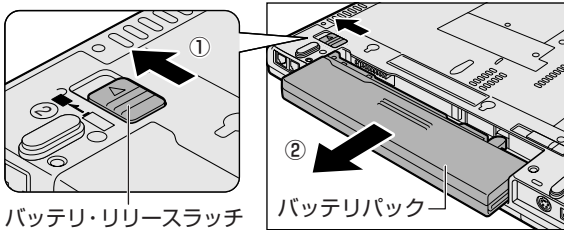
1 取りはずし／取り付け

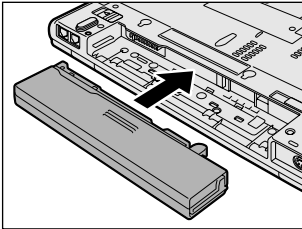
1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

2 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す

4 バッテリ安全ロックを矢印の方向にスライドする

ロックが解除され、バッテリ・リリースラッチがスライドできるようになります。

5 バッテリ・リリースラッチをスライドしながら①、バッテリパックを取りはずす②

6 交換するバッテリパックを、「カチッ」と音がするまで静かに差し込む

バッテリ・リリースラッチが自動的にスライドして、「カチッ」という音がします。

2 省電力の設定をする

バッテリ駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らす設定をする（ディスプレイの明るさを抑えるなど）と、より長い時間使用できます。
省電力の設定をまとめたものをプロファイルといいます。使用環境ごとに設定されたプロファイルがあらかじめ用意されていますので、使用環境にあわせてプロファイルを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更できます。プロファイルの設定を変更したり、新しくプロファイルを追加することもできます。

1 東芝省電力

省電力の設定は「東芝省電力」から行います。
AC アダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありませんが、ディスプレイの明るさなどはお好みにあわせて設定してください。

1 東芝省電力の起動方法

1 ［コントロールパネル］を開き、［ パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする

2 ［ 東芝省電力］をクリックする

［東芝省電力のプロパティ］画面が表示されます。

（表示例）

使いかたについては、ヘルプをご覧ください。

ヘルプの起動方法

1 「東芝省電力」を起動後、画面右上の ? をクリックする

ポインタが に変わります。

2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

ヘルプの該当するページが表示されます。

3　パソコンの使用を中断する/電源を切る

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。
再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断した時の状態が再現されます。

お願い　操作にあたって

- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- スタンバイ中に次のことを行わないでください。次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
  ・スタンバイ中にメモリを抜き差しすること
  ・スタンバイ中にバッテリパックをはずすこと
  また、スタンバイ中にバッテリ残量が減少した場合も同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。
  システムが起動しない場合は、電源スイッチを５秒以上押していったん電源を切った後、再度電源を入れてください。この場合、スタンバイ前の状態は保持できていません（ResumeFailure で起動します）。
- スタンバイ中や休止状態では、バッテリや増設メモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。 保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しない場合は、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。
- パソコン本体を航空機や病院に持ち込む場合、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与える場合があります。
- スタンバイまたは休止状態を実行する場合は、メディアへの書き込みが完全に終了していることを確認してください。書き込み途中のデータがある状態でスタンバイまたは休止状態を実行した場合、データが正しく書き込まれないことがあります。メディアを取り出しできる状態になっていれば書き込みは終了しています。

1) スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。
スタンバイはすばやく状態が再現されますが、休止状態よりバッテリを消耗します。バッテリを使い切ってしまうと保存されていないデータは消失するので、AC アダプタを取り付けて使用することを推奨します。

1 スタンバイの実行方法

1 ［スタート］ボタンをクリックし①、［終了オプション］をクリックする②

2 ［スタンバイ］をクリックする

メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

3 Power ⏻ LED がオレンジ点滅しているか確認する

> メモ
>
> (FN)＋(F3)キーを押して、スタンバイにすることもできます。

② 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。
購入時の設定では、バッテリが消耗すると、パソコン本体は自動的に休止状態になります。休止状態が無効の場合はそのまま電源が切れるため、作業中のデータが消失するおそれがあります。バッテリ駆動（AC アダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることを推奨します。
購入時は、休止状態が有効に設定されています。

1 休止状態の実行方法

1 休止状態を有効に設定する

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする
② ［電源オプション］をクリックする
③ ［休止状態］タブで［休止状態を有効にする］をチェックする
④ ［OK］ボタンをクリックする

休止状態が有効になります。

2 ［スタート］ボタンをクリックし①、［終了オプション］をクリックする②

3 SHIFTキーを押したまま［休止状態］をクリックする

SHIFTキーを押している間は、［スタンバイ］が［休止状態］に変わります。

Power ⏻ LED が点灯中は、バッテリパックを取りはずさないでください。

メモ

(FN)＋(F4)キーを押して、休止状態にすることもできます。

③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

［スタート］メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスタンバイ／休止状態にすることができます。
休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。購入時は、休止状態が有効に設定されています。解除した場合は、「本節❷-1 休止状態の実行方法」手順 1 を参照して、設定しておいてください。

1 電源スイッチを押す

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする
② ［東芝省電力］をクリックする
③ ［アクション設定］タブの［電源ボタンを押したとき］で［入力を求める］［スタンバイ］［休止状態］［シャットダウン］のいずれかを選択する
［何もしない］に設定すると、特に変化はありません。
④ ［OK］ボタンをクリックする

2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。
手順 1 の③で［入力を求める］を選択したときは、［コンピュータの電源を切る］画面が表示されます。

2 ディスプレイを閉じる

ディスプレイを閉じることによって［スタンバイ］［休止状態］のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。

1 ディスプレイを閉じたときの動作を設定する

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする

② ［東芝省電力］をクリックする

③ ［アクション設定］タブの［コンピュータを閉じたとき］で［スタンバイ］［休止状態］のいずれかを選択する
［何もしない］に設定すると、パネルスイッチ機能は働きません。

④ ［OK］ボタンをクリックする

2 ディスプレイを閉じる

設定した状態へ移行します。
［スタンバイ］［休止状態］に設定した場合は、次にディスプレイを開くと、自動的にディスプレイを閉じる前の状態が再現されます。

5章

アプリケーションについて

アプリケーションについて知っておきたいことを説明しています。

1 アプリケーションを追加（インストール）する

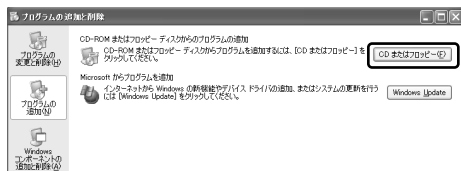
インストールとは、必要なファイルなどをパソコンに組み込んで、アプリケーションを使えるようにすることです。
新規に購入したアプリケーションを使うときに必要な作業です。
また、購入時にすでにインストール済みであることをプレインストールといいます。

お願い

アプリケーションの追加や削除を行う前に、必ずデータを保存し、その他のアプリケーションを終了させてください。終了せずに、追加や削除を行うと、データが消失するおそれがあります。

アプリケーションのインストールは、コンピュータの管理者アカウントで行います。
［プログラムの追加と削除］からアプリケーションをインストールする方法を説明します。
手動で［プログラムの追加と削除］を実行しなくても、CD-ROMなどを挿入したときに自動的にインストールのプログラムが起動する場合もあります。その場合は表示されるメッセージに従って操作してください。

1 操作手順

1. **インストールしたいアプリケーションのフロッピーディスクまたはCD-ROMなどをセットする**
2. **［コントロールパネル］を開き、［ プログラムの追加と削除］をクリックする**
3. **［プログラムの追加］ボタン（ ）をクリックする**
4. **［CDまたはフロッピー］ボタンをクリックする**

この後の作業はアプリケーションによって異なります。表示されるメッセージに従って操作してください。

2 アプリケーションを削除(アンインストール)する

アプリケーションを削除することを、アンインストールといいます。
本製品にプレインストールされているアプリケーションは、いったん削除した場合でも、再インストールして使用することができます。

参照 再インストールについて
『困ったときは 4章 3 アプリケーションを再インストールする』

アプリケーションを削除する方法を説明します。
アプリケーションの削除は、コンピュータの管理者アカウントで行います。
アプリケーションの削除は、本当に削除してよいか、よく確認してから行ってください。

メモ

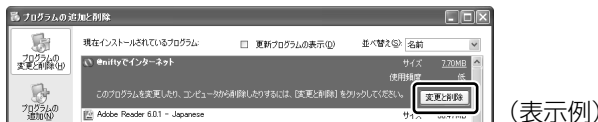
アプリケーションによっては、アンインストールするためのユーティリティ(アンインストーラ)が用意されています。削除したいアプリケーションが一覧にないときは、アンインストーラを使用して削除できる場合があります。詳しくは、アプリケーションのヘルプや『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

1 操作手順

1 [コントロールパネル]を開き、[プログラムの追加と削除]をクリックする

2 現在インストールされているプログラムの一覧から削除したいアプリケーションをクリックする

3 [削除]または[変更と削除]ボタンをクリックする

(表示例)

表示されるメッセージに従って操作してください。

6章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

1 システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。
システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティで変更するか、または BIOS セットアップで変更するか、2 つの方法があります。
通常は、Windows 上のユーティリティで変更することを推奨します。

変更できる項目		Windows 上のユーティリティ
ハードウェア環境（パソコン本体）の設定		「東芝 HW セットアップ」 参照 《サイバーサポート（検索）：東芝 HW セットアップ》
パスワードセキュリティの設定	ユーザパスワード	「東芝 HW セットアップ」の［パスワード］タブ 参照 《サイバーサポート（検索）：ユーザパスワード》
	スーパーバイザパスワード	「スーパーバイザパスワードユーティリティ」 参照 《サイバーサポート（検索）：スーパーバイザパスワード》
省電力の設定		「東芝省電力」 参照 「4 章 2 省電力の設定をする」

ユーザパスワードでキーフロッピーディスクを作成したい場合は、BIOS セットアップで登録してください。

参照 パスワードの種類について『さあ始めよう 4 章 パスワードについて』

BIOS セットアップについては「本章 2 BIOS セットアップを使う」をご覧ください。

2 BIOS セットアップを使う

BIOS（バイオス）セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。

次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器接続ポート）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

BIOS セットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更は Windows 上の「東芝 HW セットアップ」、「東芝省電力」、「デバイスマネージャ」などで行ってください。
  BIOS セットアップと Windows 上の設定が異なる場合、Windows 上の設定が優先されます。
- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOS セットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリ（時計用バッテリ）が消耗した場合は標準設定値に戻ります。

1 起動と終了

1 起動

1 ESCキーを押しながら電源を入れる

「Password = 」と表示された場合は、登録したユーザパスワードを入力し、ENTERキーを押してください。

「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 F1キーを押す

BIOS セットアップが起動します。

2 終了

変更した内容を有効にして終了します。

1 FN＋→キーを押す

本製品では、FN＋→がENDキーの機能を持ちます。
画面にメッセージが表示されます。

2 Yキーを押す

設定内容が有効になり、BIOSセットアップが終了します。
変更した項目によっては、再起動されます。

途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合に行います。この場合は変更した内容はすべて無効になります。設定値は変更前の状態のままです。

1 ESCキーを押す

画面にメッセージが表示されます。

2 Yキーを押す

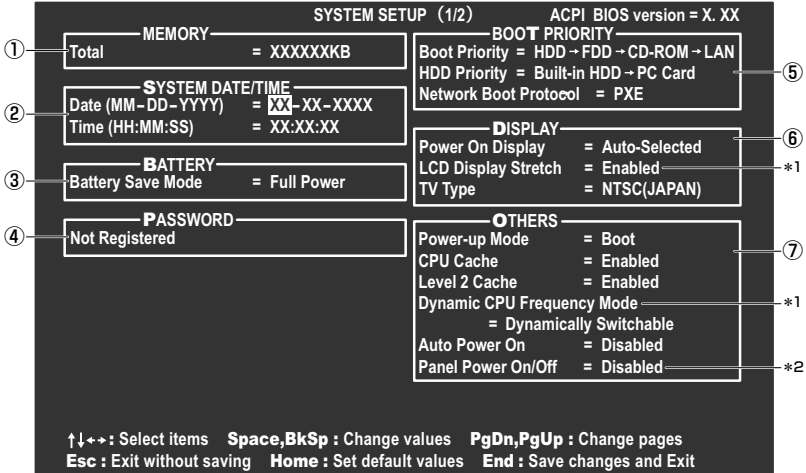
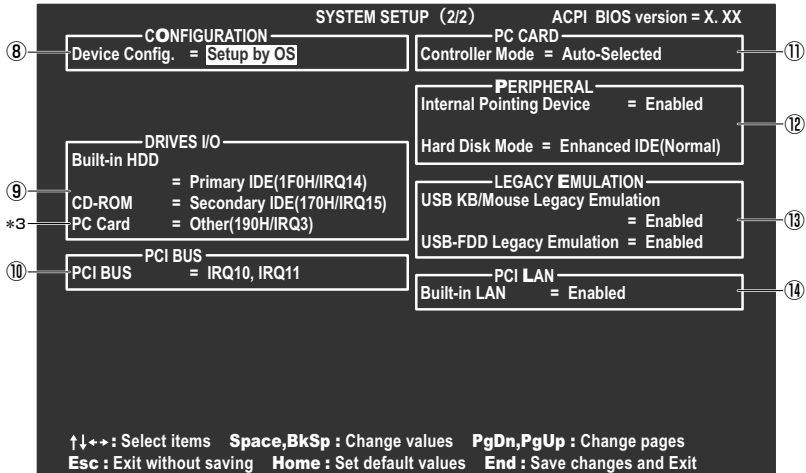
BIOS セットアップが終了します。

3 基本操作

基本操作は次のとおりです。

変更したい項目を選択する	↑、↓、←、→ 画面中で反転している部分が現在変更できる項目です。
項目の内容を変更する	SPACEまたはBACKSPACE
画面を切り替える	FN＋↓またはFN＋↑ 本製品では、FN＋↓がPGDNキー、FN＋↑がPGUPキーの機能を持ちます。 次の画面または前の画面に切り替わります。
設定内容を標準値にする	FN＋← 本製品では、FN＋←がHOMEキーの機能を持ちます。 次の項目は、この操作をしても変更されません。 ●PASSWORD　●Hard Disk Mode

2 BIOS セットアップの画面

BIOS セットアップには次の 2 つの画面があります。

＊ 1 Pentium モデルのみ表示されます。
＊ 2 Panel Power On/Off は、「Power-up Mode」が「Boot」のときは表示されません。

＊ 3 PC カードタイプのハードディスクからシステムを起動させた場合のみ表示されます。

（注）画面は標準設定値の表示例です。

設定項目の詳細について 「本節 ❸ 設定項目」

③ 設定項目

カーソルが移動しない項目は、変更できません(参照のみ)。
ここでは、標準設定値を「標準値」と記述します。

1 MEMORYーメモリ容量を表示する

【 Total 】
本体に取り付けられているメモリの総メモリ容量が表示されます。

2 SYSTEM DATE/TIMEー日付と時刻の設定をする

日付と時刻の設定は(SPACE)または(BACKSPACE)キーで行います。
月と日と年、時と分と秒の切り替えは、(↑)(↓)キーで行います。

【 Date 】
日付を設定します。

【 Time 】
時刻を設定します。

3 BATTERYーバッテリで長く使用するための設定をする

【 Battery Save Mode 】
バッテリセーブモードを設定します。
「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウが開きます。
「User Setting」を選択した場合のみ、設定の変更ができます。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの設定項目は次のように表示されます。

●Full Power(標準値)	●User Setting(設定例)	●Low Power
Processing Speed = High	Processing Speed = Low	Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled	CPU Sleep Mode = Enabled	CPU Sleep Mode = Enabled
Display Auto Off = 30Min.	Display Auto Off = 03Min.	Display Auto Off = 03Min.
HDD Auto Off = 30Min.	HDD Auto Off = 03Min.	HDD Auto Off = 03Min.
System Auto Off = Disabled	System Auto Off = 30Min.	System Auto Off = 30Min.
LCD Brightness = Super-Bright	LCD Brightness = Semi-Bright	LCD Brightness = Bright
Cooling Method = Maximum Performance	Cooling Method = Battery Optimized	Cooling Method = Battery Optimized

(注) System Auto Off(システム自動停止時間)は、「Power-up Mode」が「Boot」のときは表示されません。
またLCD Brightnessは、ACアダプタを接続している場合の表示内容です。

「User Setting」で「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウを閉じるには、↑ ↓キーを押して選択項目を「Processing Speed」または「Cooling Method」の外に移動します。

次に「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

● Processing Speed

処理速度を設定します。
使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。
・High.......................... 処理速度を高速に設定する
・Low........................... 処理速度を低速に設定する

● CPU Sleep Mode

CPU が処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。
一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。
・Enabled .... 電力消費を低減する
・Disabled .... 電力消費を低減しない

● Display Auto Off（表示自動停止時間）

時間を設定すると、設定した時間以上キーを押さない場合（マウスやタッチパッドの操作も含む）にディスプレイを消灯して節電します。
画面に表示されている内容が見えなくなりますが、これは故障ではありません。
画面に表示するには、SHIFTキーを押すか、マウス、タッチパッドを操作してください。
・Disabled .... 自動停止機能を使用しない
自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。

● HDD Auto Off（HDD 自動停止時間）

設定した時間以上ハードディスクの読み書きをしない場合に、ハードディスクの回転を止めて節電します。
自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。ハードディスクドライブを保護するため、「Disabled」は設定できません。

● System Auto Off（システム自動停止時間）

時間を設定すると、設定した時間以上システムを使用しない場合に、システムを止めて節電します。
「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。
・Disabled .... 自動停止機能を使用しない
自動停止時間の設定は「10Min.」～「60Min.」から選択します。

- LCD Brightness（LCD 輝度）

  画面の明るさを選択します。
  - ・Semi-Bright .... 低輝度に設定する
  - ・Super-Bright .... 最高輝度に設定する
  - ・Bright .... 高輝度に設定する

- Cooling Method（CPU 熱制御方式）

  CPU の熱を冷ます方式を選択します。

  CPU が高熱を帯びると故障の原因になります。
  - ・Maximum Performance ... パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にファンを使用して冷却します。
  - ・Performance .... パソコン本体内部の温度が上昇したときに、［Maximum Performance］と［Battery Optimized］の中間的な方法で冷却します。
  - ・Battery Optimized .... パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にCPU の処理速度を落として冷却します。［Performance］より消費電力は少なくなります。

4 PASSWORDーユーザパスワードの登録／削除をする

ユーザパスワードの登録や削除は「東芝 HW セットアップ」で行うことを推奨します。

東芝 HW セットアップでのパスワード設定
《サイバーサポート（検索）：ユーザパスワード》

キーフロッピーディスクを作成したい場合は、BIOS セットアップで登録してください。

パスワードの入力エラーが 3 回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、再度登録を行ってください。

【 Not Registered 】

ユーザパスワードが登録されていないときに表示されます（標準値）。

【 Registered 】

ユーザパスワードが登録されているときに表示されます。

■ ユーザパスワードの登録とキーフロッピーディスクの作成 ■

キーフロッピーディスクとは、ユーザパスワードを忘れた場合に使用するフロッピーディスクのことです。BIOS セットアップで作成してください。

キーフロッピーディスクを作成する場合は、フォーマット済みの 2DD（720KB）または 2HD（1.44MB）フロッピーディスクとフロッピーディスクドライブが必要です。あらかじめ用意してください。
キーフロッピーディスクを作成すると、そのフロッピーディスクに保存されていた内容はすべて消去されます。フロッピーディスクの内容をよく確認してから、使用してください。

次のように操作します。

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Not Registered」に合わせ、SPACE または BACKSPACE キーを押す

パスワード入力画面が表示されます。
ユーザパスワードが登録されている場合は、「PASSWORD」に「Registered」と表示されます。その場合は、ユーザパスワードを削除してから、登録してください。

参照 ユーザパスワードの削除方法「本項 4- ユーザパスワードの削除」

3 パスワードを入力する

パスワードは 10 文字以内で入力できます。パスワードに使用できる文字は、「東芝 HW セットアップ」の場合と同様です。

パスワードは 1 文字ごとに＊が表示されますので、画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

4 ENTER キーを押す

1 回目のパスワードが確認され、パスワードの再入力画面が表示されます。

5 2 回目のパスワードを入力する

パスワードは手順 3 と同じパスワードを入力してください。

6 ENTER キーを押す

パスワードが登録されます。2 回目のパスワードが 1 回目のパスワードと異なる場合は、再度パスワードの入力画面が表示されます。手順 3 からやり直してください。

7 ユーザパスワードの設定が終了したら、FN＋→キーを押す

本製品では、FN＋→がENDキーの機能を持ちます。
次のようなメッセージが表示されます。

```
Are you sure ? (Y/N)
The changes you made will cause the system to reboot.
Insert password service disk if necessary.
```

8 キーフロッピーディスクを作成する場合は、フロッピーディスクをセットしてYキーを押す

作成しないでそのまま終了する場合はフロッピーディスクをセットせずにYキーを押します。
BIOS セットアップの画面に戻るにはNキーを押します。
手順 9 はキーフロッピーディスクを作成する場合の手順です。

9 キーフロッピーディスクを作成する

次のメッセージが表示されます。

```
Password Service Disk Type ? (1:2HD,2:2DD)
```

① **セットされているフロッピーディスクが 2HD の場合は1キーを、2DD の場合は2キーを押す**

フロッピーディスクへの書き込みを開始します（フロッピーディスクがセットされていない場合は、そのまま終了します）。

フロッピーディスクへの書き込みが終了すると、次のメッセージが表示されます。

```
Remove the password service disk, then press any key.
```

② **フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押して終了する**

参照 キーフロッピーディスクの使いかた
「本項 4- ユーザパスワードを忘れてしまったとき」

■ ユーザパスワードの削除 ■

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Registered」に合わせ、SPACEまたはBACKSPACEキーを押す

パスワード入力画面が表示されます。

3 登録してあるユーザパスワードを入力する

入力すると 1 文字ごとに＊が表示されます。

4 ENTERキーを押す

パスワードが削除されます。
入力したパスワードが登録したユーザパスワードと異なる場合は、ビープ音が鳴りエラーメッセージが表示された後、パスワードの入力画面が表示されます。手順 3 からやり直してください。

■ ユーザパスワードを忘れてしまったとき ■

キーフロッピーディスクを使用して、登録したユーザパスワードの解除と再登録ができます。また、再登録したパスワードのキーフロッピーディスクも作成できます。キーフロッピーディスクを作成していなかったときにユーザパスワードを忘れてしまった場合は、近くの保守サービスに相談してください。ユーザパスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

1 「Password= 」と表示されたら、キーフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットして、ENTERキーを押す

パスワードが解除され、次のメッセージが表示されます。

```
Set Password Again ? (Y/N)
```

2 パスワードを再登録する場合は、Ⓨキーを押す

セットアップ画面が表示されます。「本項 4- ユーザパスワードの登録とキーフロッピーディスクの作成」の手順2以降を行ってください。再登録後、システムが再起動します。

パスワードを再登録しない場合は、Ⓝキーを押す

次のメッセージが表示されます。

```
Remove the Disk,then press any key.
```

フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押すと、システムが再起動します。

■ ユーザパスワードの変更 ■

ユーザパスワードを削除してから、登録を行ってください。

5 BOOT PRIORITYーブート優先順位を設定する

【 Boot Priority 】

システムを起動するディスクドライブの順番を設定します。
通常は「HDD→FDD→CD-ROM→LAN」に設定してください。

・HDD→FDD→CD-ROM→LAN（標準値）
・FDD→HDD→CD-ROM→LAN
・HDD→CD-ROM→LAN→FDD
・FDD→CD-ROM→LAN→HDD
・CD-ROM→LAN→HDD→FDD
・CD-ROM→LAN→FDD→HDD

（FDD→HDD→CD-ROM→LAN から CD-ROM→LAN→FDD→HDD まで：指定のドライブ順に起動する）

【 HDD Priority 】

ハードディスクドライブを複数使用する場合に、システムを起動する順番を設定します。
通常は「Built-in HDD → PC Card」に設定してください。

・Built-in HDD → PC Card（標準値）
・PC Card → Built-in HDD

【 Network Boot Protocol 】

ネットワークからの起動について設定します。

・PXE（標準値）.......... PXEプロトコルに設定する
・RPL .... RPLプロトコルに設定する

6 DISPLAY ー表示装置の設定をする

【 Power On Display 】

起動時の Windows ロゴを表示する表示装置を選択します。

- ・Auto-Selected（標準値）.. システム起動時に外部ディスプレイを接続しているときは外部ディスプレイだけに、接続していないときは本体液晶ディスプレイだけに表示する
- ・LCD ＋ Analog RGB .... 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイに同時表示する

SVGA モードに対応していない外部ディスプレイを接続して、「LCD ＋ Analog RGB」を選択した場合、外部ディスプレイには画面が表示されません。
Windows の起動後は、前回電源を切る前に接続していた表示装置が存在すればその表示装置に表示します。前回電源を切る前に接続していた表示装置が存在しない場合は、本体液晶ディスプレイに表示されます。

【 LCD Display Stretch 】

Pentium モデルのみ表示されます 。
本体液晶ディスプレイで、解像度の小さい表示モードを伸張させて表示させるかを選択します。

- ・Disabled .... 解像度の小さい表示モードは伸張せずにそのまま表示する
- ・Enabled（標準値）... 解像度の小さい表示モードを伸張して表示する

【 TV Type 】

テレビ受信機を選択します。

- ・NTSC（JAPAN）（標準値）.. 日本仕様の TV 受信機
- ・PAL .... ヨーロッパ仕様の TV 受信機
- ・NTSC（US）....................... 米国仕様の TV 受信機

7 OTHERSーその他の設定をする

【 Power-up Mode（レジューム機能）】

レジューム機能を設定します。

・Boot（標準値）......... レジューム機能を無効にする
・Resume .... レジューム機能を有効にする

【 CPU Cache（キャッシュ）】

CPU内のキャッシュメモリを使用するかどうかの設定をします。
使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

・Enabled（標準値）... キャッシュメモリを使用する
・Disabled .... キャッシュメモリを使用しない

【 Level 2 Cache 】

2次キャッシュを使用するかどうかの設定をします。
「CPU Cache」が「Disabled」に設定されている場合は表示されません。

・Enabled（標準値）... 2次キャッシュを使用する
・Disabled 2次キャッシュを使用しない

【 Dynamic CPU Frequency Mode 】

Pentiumモデルのみ表示されます。

・Dynamically Switchable（標準値）.. CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を有効にし、使用状況に応じてCPU周波数を自動的に切り替えます。
・Always High .... CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、CPU周波数を高周波数にしてパソコンの処理能力を優先します。
・Always Low .... CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、CPU周波数を低い周波数にしてパソコンのバッテリ駆動時間を優先します。

【 Auto Power On（タイマ・オン機能）】

タイマ・オン機能の設定状態を示します。タイマ・オン機能は 1 回のみ有効です。
起動後は設定が解除されます。
Windows XP を使用している場合は「Auto Power On」の設定は無効になります。
Windows のタスクスケジューラを使用してください。

・Disabled（標準値）... タイマ・オン機能が設定されていない
・Enabled .... タイマ・オン機能が設定されている

タイマ・オン機能の設定は「OPTIONS」ウィンドウで行います。

パスワードセキュリティで設定したパスワードと休止状態が設定してある状態で、
タイマ・オン機能（Auto Power On）を設定してシステムを起動させた場合、
「Password=」と表示されます。パスワードセキュリティで設定したパスワードを
入力すると、休止状態から Windows に復帰します。

参照 パスワードセキュリティの設定「本章 1 システム環境の変更とは」

次に「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。
アラームの時刻の設定は SPACE または BACKSPACE キーで行います。
時と分、月と日の切り替えは ↑ ↓ キーで行います。

● Alarm Time

自動的に電源を入れる時間を設定します。

・Disabled .... 時間を設定しない

● Alarm Date Option

自動的に電源を入れる月日を設定します。
「Alarm Time」が「Disabled」の場合は、設定できません。

・Disabled .... 月日を設定しない

● Ring Indicator

電話回線からの呼び出し信号により、自動的に電源を入れます。
「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。
また、この機能は PC カードタイプのモデムで使用できません。

・Disabled（標準値）... リングインジケータ機能を使用しない
・Enabled .... リングインジケータ機能を使用する

【 Panel Power On/Off（パネルスイッチ機能）】

ディスプレイの開閉による電源の入／切を設定します。
「Power-up Mode」が「Resume」の場合に表示されます。

・Enabled .... パネルスイッチ機能を使用する
・Disabled（標準値）... パネルスイッチ機能を使用しない

8 CONFIGURATION

【 Device Config. 】

ブート時にBIOSが初期化する装置を指定します。

- Setup by OS（標準値）... OSをロードするのに必要な装置のみ初期化する
  それ以外の装置はOSが初期化します。
  この場合、「PCカード」内の設定は、「Auto-Selected」固定となり、変更できません。
- All Devices........................ すべての装置を初期化する

プレインストールされているOSを使用する場合は、「Setup by OS」（標準値）を選択することを推奨します。ただし「PC CARD」内のController Modeの設定を「Auto-Selected」以外に設定する場合は「All Devices」に設定してください。

参照 「PC CARD」について「本項 11 PC CARD」

9 DRIVES I/O－HDD、CD-ROM、PCカードの設定

【 Built-in HDD 】

ハードディスクドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

【 CD-ROM 】

ドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。
内蔵されているドライブがCD-ROMドライブではない場合も、すべて「CD-ROM」と表示されます。

【 PC Card 】

PCカードタイプ（TYPE Ⅱ）のハードディスク（別売り）からシステムを起動させた場合のみ、表示されます。
システムを起動できるPCカードのタイプ（TYPE Ⅱ）のハードディスク（別売り）をPCカードスロットに接続したときのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。

10 PCI BUS－PCIバスの割り込みレベルを表示する

【 PCI BUS 】

PCIバスの割り込みレベルを表示します。変更はできません。

11 PC CARD－PCカードのモードを選択する

【 Controller Mode 】

PCカードのモードを選択します。

- Auto-Selected（標準値）... プラグアンドプレイに対応したOSを使用している場合、選択します。
- PCIC Compatible .... Auto-SelectedやCardBus/16-bitで正常に動作しない16-bit PCカードを使用する場合に選択します。
- CardBus/16-bit .... Auto-Selectedで正常に動作しないCardBus対応のPCカードを使用する場合に選択します。

12 PERIPHERAL－HDDや外部装置の設定をする

【 Internal Pointing Device 】

タッチパッドを使用する／使用しないを設定します。

- Enabled（標準値）............ 使用する
- Disabled .... 使用しない

【 Hard Disk Mode 】

ハードディスクのモードを設定します。
項目を変更する場合は、パーティションの再設定を行ってください。

- Enhanced IDE（Normal）（標準値）.... 通常はこちらを選択する
- Standard IDE .... Enhanced IDEに対応していないOSを使用する場合に選択する
  この場合、528MBまでが使用可能となり、残りの容量は使用できません。

13 LEGACY EMULATION

【 USB KB/Mouse Legacy Emulation 】

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- Enabled（標準値）... レガシーサポートを行う
  ドライバなしで USB キーボード／ USB マウスが使用できます。
- Disabled .... レガシーサポートを行わない

【 USB-FDD Legacy Emulation 】

- Enabled（標準値）... レガシーサポートを行う
  ドライバなしで USB フロッピーディスクドライブが使用できます。フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。
- Disabled .... レガシーサポートを行わない

［USB-FDD Legacy Emulation］が［Enabled］に設定されていても、「本項 5 BOOT PRIORITY」の［Boot Priority］が標準値の「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」の場合は、本体ハードディスクから起動します。

14 PCI LAN

【 Built-in LAN 】

内蔵 LAN の機能を有効にするかどうかの設定をします。

- Enabled（標準値）... 有効にする
- Disabled .... 無効にする

付録

本製品のハードウェア仕様や、技術基準適合などについて記しています。

1　本製品の仕様

1　サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

参照 表示可能色数の詳細について「1 章 2-❶-1 表示可能色数」

本製品でサポートしている英語モード時のすべてのビデオモードを次に示します。モードナンバは一般に、プログラマがそれぞれのモードを識別するのに用いられます。アプリケーションソフトがモードナンバによってモードを指定してくる場合、そのナンバが図のナンバと一致していないことがあります。この場合は解像度とフォントサイズと色の数をもとに選択し直してください。

【 Pentium モデルの場合 】

<table>
<tr><th>ビデオモード</th><th>形 式</th><th>解像度</th><th>フォントサイズ</th><th>色数</th><th>CRTリフレッシュレート(Hz)</th></tr>
<tr><td>0.1</td><td rowspan="6">VGA
テキスト</td><td>40 x 25字</td><td rowspan="2">8 x 8</td><td rowspan="6">16/256K</td><td rowspan="16">70</td></tr>
<tr><td>2,3</td><td>80 x 25字</td></tr>
<tr><td>0*,1*</td><td>40 x 25字</td><td rowspan="2">8 x 14</td></tr>
<tr><td>2*,3*</td><td>80 x 25字</td></tr>
<tr><td>0+,1+</td><td>40 x 25字</td><td rowspan="2">8(9) x 16</td></tr>
<tr><td>2+,3+</td><td>80 x 25字</td></tr>
<tr><td>4,5</td><td rowspan="2">VGA
グラフィックス</td><td>320 x 200ドット</td><td rowspan="2">8 x 8</td><td>4/256K</td></tr>
<tr><td>6</td><td>640 x 200ドット</td><td>2/256K</td></tr>
<tr><td>7</td><td rowspan="2">VGA
テキスト</td><td rowspan="2">80 x 25字</td><td>8(9) x 14</td><td rowspan="2">モノクロ</td></tr>
<tr><td>7+</td><td>8(9) x 16</td></tr>
<tr><td>D</td><td rowspan="7">VGA
グラフィックス</td><td>320 x 200ドット</td><td rowspan="2">8 x 8</td><td rowspan="2">16/256K</td></tr>
<tr><td>E</td><td>640 x 200ドット</td></tr>
<tr><td>F</td><td rowspan="2">640 x 350ドット</td><td rowspan="2">8 x 14</td><td>モノクロ</td></tr>
<tr><td>10</td><td>16/256K</td></tr>
<tr><td>11</td><td rowspan="2">640 x 480ドット</td><td rowspan="2">8 x 16</td><td>2/256K</td><td rowspan="2">60</td></tr>
<tr><td>12</td><td>16/256K</td></tr>
<tr><td>13</td><td>320 x 200ドット</td><td>8 x 8</td><td>256/256K</td><td>70</td></tr>
</table>

ビデオモード	形 式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
―	SVGA グラフィックス	640 x 480ドット	―	256/256K	60/75/85 /100
―		800 x 600ドット	―		
―		1024 x 768ドット	―		
―		1280 x 1024ドット*1	―		
―		1400 x 1050ドット*1	―		60/75/85
―		1600 x 1200ドット*1	―		60/75/85/100
―		1920 x 1440ドット*1	―		60/75/85
―		2048 x 1536ドット*1	―		60/75
―		640 x 480ドット	―	64K/64K	60/75/85 /100
―		800 x 600ドット	―		
―		1024 x 768ドット	―		
―		1280 x 1024ドット*1	―		
―		1400 x 1050ドット*1	―		60/75/85
―		1600 x 1200ドット*1	―		60/75/85/100
―		1920 x 1440ドット*1	―		60/75/85
―		2048 x 1536ドット*1	―		60/75
―		640 x 480ドット	―	16M/16M	60/75/85 /100
―		800 x 600ドット	―		
―		1024 x 768ドット	―		
―		1280 x 1024ドット*1	―		
―		1400 x 1050ドット*1	―		60/75/85
―		1600 x 1200ドット*1	―		60/75/85/100
―		1920 x 1440ドット*1	―		60/75/85
―		2048 x 1536ドット*1	―		60/75

＊1 LCD に表示する場合は、実際の画面（1024 × 768）内に、仮想スクリーン表示します。
注）一部の画面モードは、マルチモニタでは使用できません。

【 Celeronモデルの場合 】

ビデオモード	形 式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
0.1	VGA テキスト	40 x 25字	8 x 8	16/256K	70
2,3		80 x 25字			
0*,1*		40 x 25字	8 x 14		
2*,3*		80 x 25字			
0+,1+		40 x 25字	8(9) x 16		
2+,3+		80 x 25字			
4,5	VGA グラフィックス	320 x 200ドット	8 x 8	4/256K	
6		640 x 200ドット		2/256K	
7	VGA テキスト	80 x 25字	8(9) x 14	モノクロ	
7+			8(9) x 16		
D	VGA グラフィックス	320 x 200ドット	8 x 8	16/256K	
E		640 x 200ドット			
F		640 x 350ドット	8 x 14	モノクロ	
10				16/256K	
11		640 x 480ドット	8 x 16	2/256K	60
12				16/256K	
13		320 x 200ドット	8 x 8	256/256K	70

ビデオモード	形 式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
–	SVGA グラフィックス	640 x 480ドット	–	256/256K	60/75/85 /100
–		800 x 600ドット	–		
–		1024 x 768ドット	–		
–		1280 x 1024ドット*[1]	–		
–		1400 x 1050ドット*[1]	–		60/75/85
–		1600 x 1200ドット*[1]	–		
–		1920 x 1440ドット*[1]	–		60
–		640 x 480ドット	–	64K/64K	60/75/85 /100
–		800 x 600ドット	–		
–		1024 x 768ドット	–		
–		1280 x 1024ドット*[1]	–		
–		1400 x 1050ドット*[1]	–		60/75/85
–		1600 x 1200ドット*[1]	–		
–		1920 x 1440ドット*[1]	–		60
–		640 x 480ドット	–	16M/16M	60/75/85 /100
–		800 x 600ドット	–		
–		1024 x 768ドット	–		
–		1280 x 1024ドット*[1]	–		
–		1400 x 1050ドット*[1]	–		60/75/85
–		1600 x 1200ドット*[1]	–		
–		1920 x 1440ドット*[1]	–		60

＊1　LCD に表示する場合は、実際の画面（1024 × 768）内に、仮想スクリーン表示します。
注）一部の画面モードは、マルチモニタでは使用できません。

2 技術基準適合について

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人　電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

『困ったときは 3章
その他 -Q.パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい』

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

省電力設定について 「4章 2 省電力の設定をする」

FCC information

Product name : dynabook TX/4 series
Model number : PSA50*

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- ❑ Reorient or relocate the receiving antenna.
- ❑ Increase the separation between the equipment and receiver.
- ❑ Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- ❑ Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's RGB connector, USB connector, i.LINK(IEEE1394) connector and Microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697
Telephone : (949) 583-3000

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第 50 条 1 項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。

●回線規格ラベル

本製品の内蔵モデムには、次の回線規格ラベルが貼付してあります。

URST 1336
c US
E188325
RO 133 MD 2002 X
INSTYTUT LACZNOSCI
Nr. 2/2002
TEC/WR/I/MOD-08/01/068.SEP 02
PTA Approved
S.A
5300-013040
IC:1353A-L4AINT
REN:0.0
NTC
Type Approved
No.: ESD-CPE-0200403
TELEPERMIT
This ASKEY 1456VQL4A(INT) Internal Modem may be connected to the Telecom Network
RN=0.5
PTC 211 / 02 / 104
Factory ID:
(01) 07898369270034
ANATEL
0644-02-1110 2002021601000016
ČTÚ 2002 N
T 1573

TÚ SR T 225 2002 N
交通部電信總局
審驗合格標籤
號碼：C91-M028-F
ME 30
Morocco:1833/2002
ΔKΔ T-7-294/02X
기기의 명칭(모델명): 1456VQL4A(INT)
인증번호: TE-A23/K012-02-0177
인증받은 자의 상호: ASKEY COMPUTER CORP.
제조년월일: 2002
제조자/제조국가: ASKEY COMPUTER CORP./대만
MIC
ASKEY COMPUTER CORP.
Made in China
CM-2
Model:1456VQL4A(INT)
Rated: 3.3Vdc, 300mA
Tested to Comply with FCC Standards
FOR HOME OR OFFICE USE
Compliance with FCC Part 68. REN:0.0B
FCC NO.:US:H8NM500BL4AINT
Mexico: SCT TTDAS1402-393
Argentina: CNC 54-2690
Complies with IDA Standards
52969319D
Complies with Canadian ICES-003 class B
N723
Type approval No:7-1894-0-100303
Valid from:29/8/02
Permit No:13-1894-0-100304
Valid from:29/8/02
認定番号A02-0604JP
E 02/01/062/G
黏貼處

●対応地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

（2005 年 1 月現在）

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。
内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。
内蔵モデムに接続する回線が PBX 等を経由する場合は使用できない場合があります。
上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめ了承してください。

設定について
《サイバーサポート（検索）：海外でインターネットに接続したい》

●自動再発信の制限

内蔵モデムは 2 回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を 2 回以下または再発信間隔を 1 分以上にしてください）。

＊内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は 2 回以内（但し、最初の発信から 3 分以内）」に従っています。

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).
However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.
In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.
The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals.
If has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
  For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.
Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.
In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.
In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.
In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

1 NOTICE : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.
Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.
The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.
Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.
Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.
Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

2 The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:
The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your modem’s label.

NOTICE : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

3 The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.
CANADA:1353A-L4AINT

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.
The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.
To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of $12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.

- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
  a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
  b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.

- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.

- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC
  Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
  a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and

付録

b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.

c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.

- Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
- The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:

ATB0 (CCITT operation)
AT&G2 (1800 Hz guard tone)
AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
ATS0=0 (not auto answer)
ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)

- When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:

(a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.

(b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.

- The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.
  Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
  Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1
  Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.
- The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.
  Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
- It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
- When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
- This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as Fax Ability.

NOTE THAT FAULT CALL OUT CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is $337.50. An additional charge of $337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. $112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for $NZ1237.50 will be sent under separate cover.

Panasonic DVDスーパーマルチドライブ UJ-831 (DVDスーパーマルチドライブ DVD+R 2層式メディア対応) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
   本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
   本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格EN60825で"クラス1レーザー機器"に分類されています。
   レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

Panasonic DVD スーパーマルチドライブ UJ-830（DVD スーパーマルチドライブ）安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
   本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
   本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で“クラス 1 レーザー機器”に分類されています。
   レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

TEAC DVD スーパーマルチドライブ DV-W28E
（DVD スーパーマルチドライブ DVD+R 2 層式メディア対応）
安全にお使いいただくために

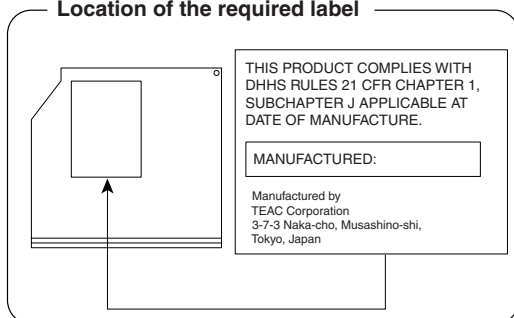
本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で“クラス 1 レーザー機器”に分類されています。
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNDGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLEN ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEEN.

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

Panasonic CD-RW ／ DVD-ROM ドライブ UJDA750 ／ 760（DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ）安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
   本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
   本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で“クラス 1 レーザー機器”に分類されています。
   レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

HITACHI LG DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ GCC-4241N（DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ）安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で"クラス 1 レーザー機器"に分類されています。
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

東芝 DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ SD-R2512（DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ）安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

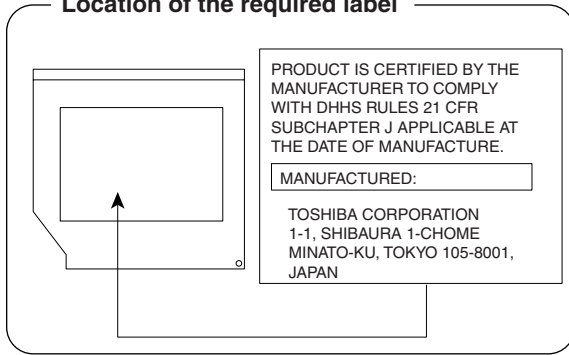
1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
   本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
   本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格EN60825で"クラス１レーザー機器に分類されています。レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

   CLASS 1 LASER PRODUCT
   APPAREIL À LASER DE CLASSE 1
   LASER KLASSE 1 PRODUKT
   TO EN 60825-1
   クラス 1 レーザー製品

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

DANGER
CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION
CLASSE 3B RAYONNEMENT VISIBLE ET INVISIBLE LASER EN CAS D'OUVERTURE EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT
KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
注　意
ここを開くと、クラス 3B レーザ規格の可視レーザ光及び不可視レーザ光が出ます。ビームを直接見たり触れたりしないこと。

ADVARSEL
KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDSÆTTELSE FOR STRÅLING
ADVARSEL
KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARO !
KURSSI 3B NÄKYVÄÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEEN.
VARNING
KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.

Location of the required label

3 無線LANについて

1 無線特性

無線 LAN の無線特性は、製品を購入した国／地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。
多くの場合、無線通信は使用する国／地域の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない 2.4GHz 帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。
各地域で適用される無線規制については、「本節 5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

無線周波数帯	IEEE802.11g, IEEE802.11b	2.4GHz（2400-2497MHz）
変調方式	IEEE802.11g	直交周波数分割多重方式 OFDM-BPSK, OFDM-QPSK, OFDM-16QAM, OFDM-64QAM
	IEEE802.11b	直接拡散方式 DSSS-CCK, DSSS-DQPSK, DSSS-DBPSK

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る " 障害物 " がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

2 サポートする周波数帯域

無線 LAN がサポートする 2.4GHz 帯のチャネルは、国／地域内で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線 IEEE802.11 チャネルセット」参照)。
各地域で適用される無線規制については、「本節 5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

【 無線 IEEE802.11 チャネルセット 】

周波数帯域	2400-2497 MHz
チャネルID	
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	**2457** ＊1
11	2462
12	2467 ＊2
13	2472 ＊2
14	2484 ＊2

＊1　購入時に設定されているチャネルです。
＊2　これらのチャネルが使用可能かどうかは、使用する無線 LAN モジュールによって異なります。使用可能チャネルについては、「付録 3-6 ご使用になれる国／地域について」を参照してください。

無線 LAN をインストールする場合、チャネル設定は、次のように管理されます。

- インフラストラクチャで無線 LAN 接続する場合、ステーションが自動的に無線 LAN アクセスポイントのチャネルに切り替えます。異なるアクセスポイント間をローミングする場合は、ステーションが必要に応じて自動的にチャネルを切り替えます。無線 LAN アクセスポイントの設定チャネルもこの範囲にする必要があります。
- アドホックモードで無線 LAN 接続する場合は、チャネル 10 が使用されます。

3 本製品を日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。

【 1. ステッカー 】

本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に同梱されている次のステッカーをパソコン本体に貼付ください。

この機器の使用周波数帯は　2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用 の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア 無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCダイヤルへお問い合わせください。

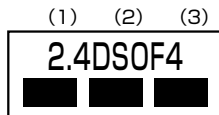
【 2. 現品表示 】

本製品と梱包箱には、次に示す現品表示が記載されています。

（1）（2）（3）

2.4DSOF4

■■■

（4）

（1）2.4　：2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。

（2）DS　：変調方式がDS-SS方式であることを示す。

　　 OF　：変調方式がOFDM方式であることを示す。

（3）4　：想定される与干渉距離が40m以下であることを示す。

（4）■■■：2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

【 3. 東芝PCダイヤル 】

受付時間　：9:00～19:00（年中無休）

ナビダイヤル：0570-00-3100

4 機器認証表示について

本製品には、電波法及び電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、以下の認証を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

無線設備名：WM3B2200BG
株式会社　ディーエスピーリサーチ　　認証番号：003NY03120 0000,
D03-0064JPB

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

5 お客様に対するお知らせ

【 無線製品の相互運用性 】

Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection製品は、Direct Sequence Spread Spectrum（DSSS）／Orthognal Frequency Division Multiplexing（OFDM）無線技術を使用するあらゆる無線LAN製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers（米国電気電子技術者協会）策定のIEEE802.11 Standard on Wireless LANs(Revision B/G)（無線LAN標準規格(版数B/G))
- Wi-Fi Allianceの定義するWireless Fidelity（Wi-Fi）認証

【 健康への影響 】

Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection製品はほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。
Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection製品の動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。
ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者がWireless LANの使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中でWireless LAN装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Wireless LAN装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

【 規制に関する情報 】

Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection製品のインストールと使用に際しては、必ず製品付属のマニュアルに記載されている製造元の指示に従ってください。本製品は、次に示す無線周波基準と安全基準に準拠しています。

● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.
Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference , and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."
L ' utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit étre prét à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.
To reduce potential radio interference to other users, the antenna type and its gain should be so chosen that the equivalent isotropically radiated power (EIRP) is not more than that required for successful communication.
To prevent radio interference to the licensed service, this device is intended to be operated indoors and away from windows to provide maximum shielding. Equipment (or its transmit antenna) that is installed outdoors is subject to licensing.

Pour empecher que cet appareil cause du brouillage au service faisant l'objet d'une licence, il doit etre utilize a l'interieur et devrait etre place loin des fenetres afin de Fournier un ecram de blindage maximal. Si le matriel (ou son antenne d'emission) est installe a l'exterieur, il doit faire l'objet d'une licence.

The tern "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical spacifications were met.

● Europe - EU Declaration of Conformity

This device complies with the essential requirements of the R&TTE Directive 1999/5/EC with essential test suites as per standards:

België/ Belgique:	For private usage outside buildings across public grounds over less than 300m no special registration with IBPT/BIPT is required. Registration to IBPT/BIPT is required for private usage outside buildings across public grounds over more than 300m. For registration and license please contact IBPT/BIPT.
	Voor privé-gebruik buiten gebouw over publieke groud over afstand kleiner dan 300m geen registratie bij BIPT/IBPT nodig; voor gebruik over afstand groter dan 300m is wel registratie bij BIPT/IBPT nodig. Voor registratie of licentie kunt u contact opnemen met BIPT.
	Dans le cas d'une utilisation privée, à l'extérieur d'un bâtiment, au-dessus d'un espace public, aucun enregistrement n'est nécessaire pour une distance de moins de 300m. Pour une distance supérieure à 300m un enregistrement auprès de I'IBPT est requise. Pour les enregistrements et licences, veuillez contacter I'IBPT.
Deutschland:	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow
	Anmeldung im Outdoor-Bereich notwendig, aber nicht genehmigungspflichtig. Bitte mit Händler die Vorgehensweise abstimmen.
France:	Restricted frequency band: only channels 1 to 7 (2400 MHz and 2454 MHz respectively) may be used outdoors in France.
	Bande de fréquence restreinte : seuls les canaux 1- 7 (2400 et 2454 MHz respectivement) doivent être utilisés endroits extérieur en France.Vous pouvez contacter I'Autorité de Régulation des Télécommuniations (http://www.art-telecom.fr) pour la procédure á suivre.
Italia:	License required for indoor use. Use with outdoor installations not allowed
	E'necessaria la concessione ministeriale anche per l'uso interno. Verificare con i rivenditori la procedura da seguire. L'uso per installazione in esterni non e' permessa.
Nederland	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow
	Licentie verplicht voor gebruik met buitenantennes. Neem contact op met verkoper voor juiste procedure

To remain in conformance with European spectrum usage laws for Wireless LAN operation, the above 2.4GHz channel limitations apply for outdoor usage. The user should use the wireless LAN utility to check the current channel of operation. If operation is occurring outside of the allowable frequencies for outdoor use, as listed above, the user must contact the applicable national spectrum regulator to request a license for outdoor operation.

● USA-Federal Communications Commission(FCC)

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy. If not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by tuning the equipment off and on, the user is encouraged to try and correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the distance between the equipment and the receiver.
- Connect the equipment to outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.
The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.

The radiated output power of the Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized. The antenna(s) used in this device are located at the upper edge of the LCD screen, and this device has been tested as portable device as defined in Section 2.1093 of FCC rules when the LCD screen is rotated 180 degree and covered the keyboard area. In addition, Wireless LAN has been tested with Bluetooth transceiver for colocation requirements. This device and its antenna(s) must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.
Refer to the Regulatory Statements as identified in the documentation that comes with those products for additional information.

The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada's website www.hc-sc.gc.ca/rpb.

● Taiwan

Article 14　Unless approved, for any model accredited low power radio frequency electric machinery, any company, trader or user shall not change the frequency, increase the power or change the features and functions of the original design.

Article 17　Any use of low power radio frequency electric machinery shall not affect the aviation safety and interfere with legal communications. In event that any interference is found, the use of such electric machinery shall be stopped immediately, and reusing of such products can be resumed until no interference occurs after improvement.
The legal communications mentioned in the above item refer to radio communications operated in accordance with telecommunication laws and regulations.
Low power radio frequency electric machinery shall resist against interference from legal communications or from industrial, scientific and medical radio emission electric machinery.

6 ご使用になれる国／地域について

- 本製品は、次にあげる国／地域の無線規格を取得しております。
  これらの国／地域以外では使用できません。
- 802.11b および 802.11g モードでのアドホック接続は、チャネル 1 ～チャネル 11 で使用できます。
- 802.11b および 802.11g モードでのインフラストラクチャ接続は、チャネル 1 ～チャネル 11 で使用できます。

【 802.11b/g（2.4GHz）】

オーストラリア	オーストリア	ベルギー
カナダ	デンマーク	フィンランド
フランス	ドイツ	アイスランド
アイルランド	イタリア	リヒテンシュタイン
ルクセンブルク	オランダ	ノルウェー
ニュージーランド	ギリシャ	ポルトガル
スペイン	スウェーデン	スイス
イギリス	アメリカ合衆国	日本
ブルガリア	ハンガリー	ヨルダン
オマーン	フィリピン	ポーランド
シンガポール	スロバキア	トルコ

さくいん

さくいん